



Bandai Namco Group

ファクトブック 2023

TABLE OF CONTENTS

1 バンダイナムコグループの概況

業績情報

- 01 連結業績の推移／経営指標
- 02 カテゴリー別売上高

商品・サービスデータ

- 03 IP別売上高／
エンターテインメントユニット（デジタル事業）
- 04 エンターテインメントユニット（玩具ホビー事業）
- 06 IPプロデュースユニット
アミューズメントユニット

2 関連市場データ

エンターテインメントユニット（デジタル事業）

- 07 ゲームアプリ市場／
家庭用ゲーム市場

エンターテインメントユニット（玩具ホビー事業）

- 08 玩具市場
- 09 プラモデル市場／フィギュア市場／
カプセルトイ市場／カード市場
- 10 食玩市場／子ども用トイレタリー市場／
ベビー・子ども服市場

IPプロデュースユニット

- 10 映像ソフト市場／音楽コンテンツ市場
- 11 アニメ市場

アミューズメントユニット

- 11 業務用ゲーム市場／アミューズメント施設市場

3 ESGデータ

- 12 マテリアリティ別 各事業セグメント
2023年3月期活動報告

14 環境関連データ

15 人事関連データ

- 雇用形態従業員数／社員データ／
女性管理職データ／年次有給休暇取得率／
その他人事情報／社員教育関連

- 16 ガバナンス関連データ／
コンプライアンス関連データ

4 バンダイナムコグループの沿革

沿革

- 17 バンダイの歴史／ナムコの歴史
- 25 バンダイナムコグループの歴史

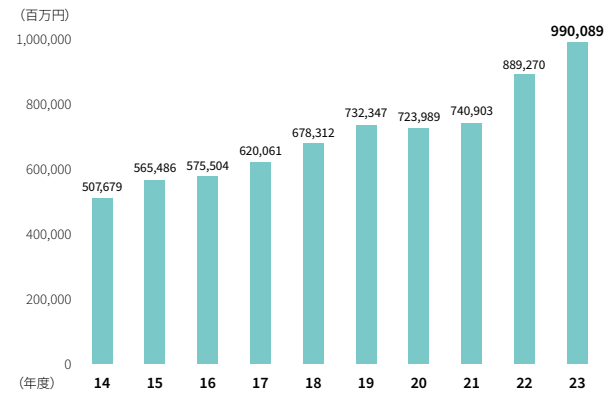


業績情報

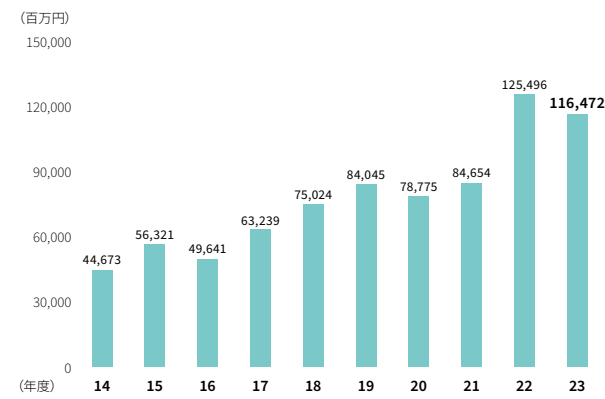
3月31日に終了した会計年度
注：記載されている数値は、端数を切り捨てた値です。

連結業績の推移

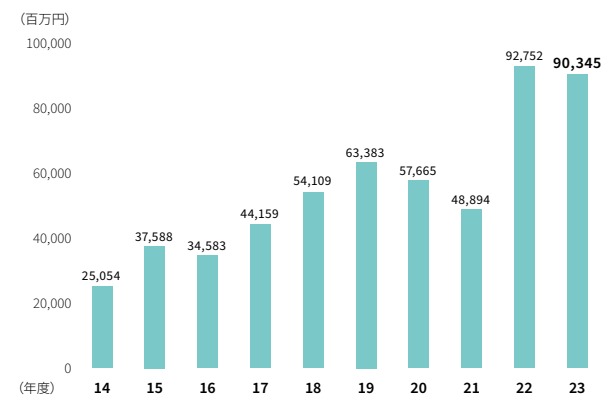
売上高



営業利益

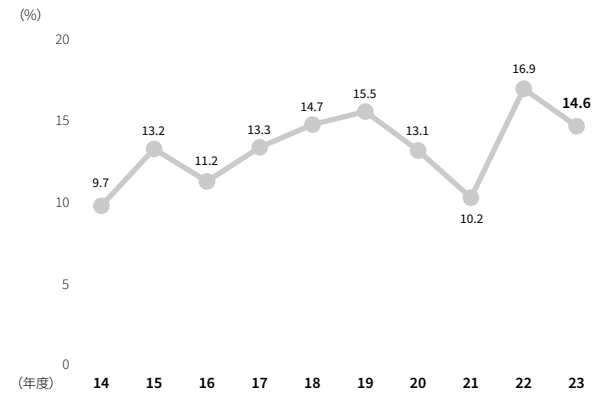


親会社株主に帰属する当期純利益

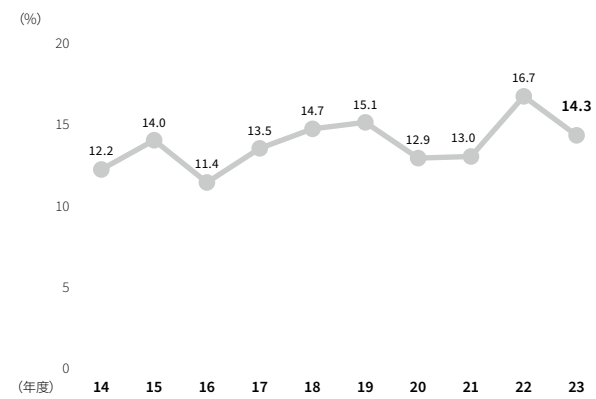


経営指標

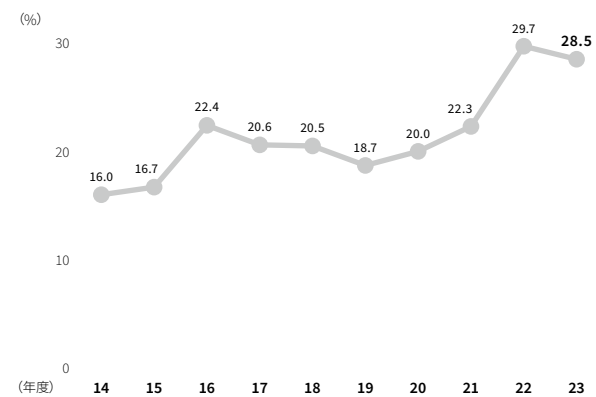
ROE (自己資本当期純利益率)



ROA (総資産経常利益率)

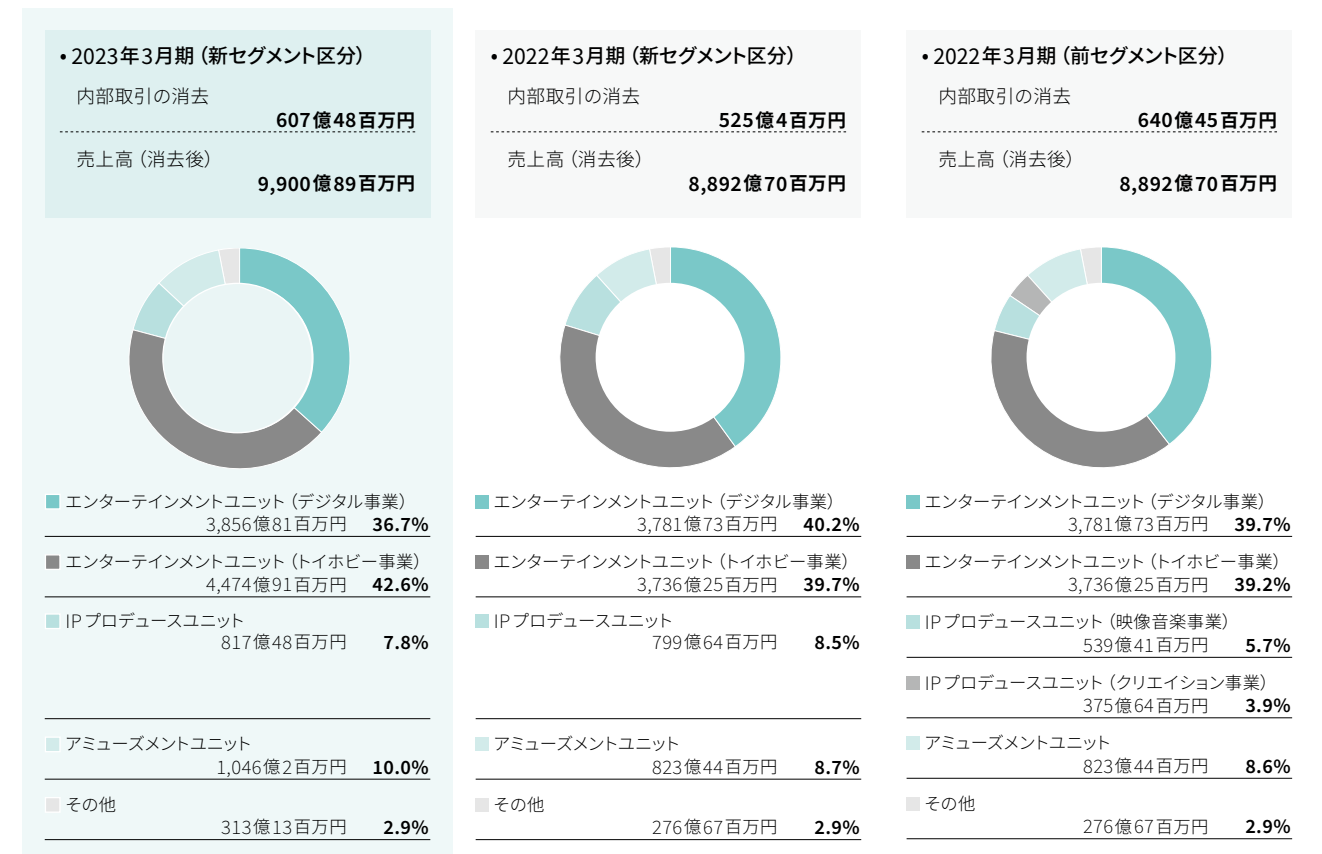


海外売上高比率



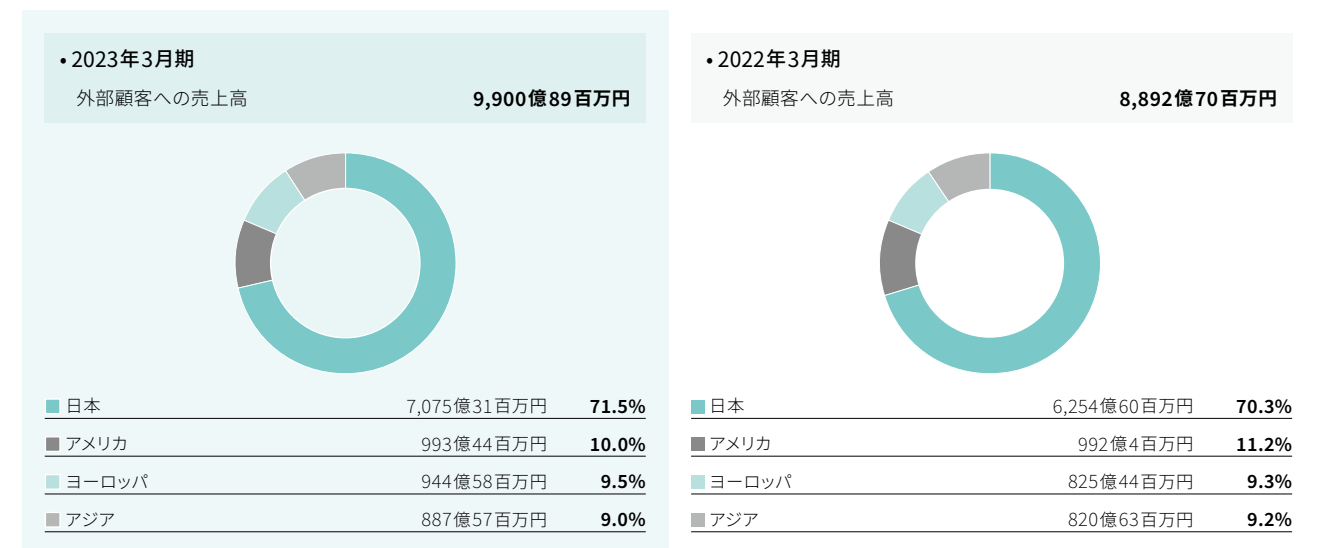
カテゴリ別売上高

セグメント別売上高 (連結)



注：円グラフはセグメント間取引消去前売上高で記載

地域別売上高



注：円グラフは外部顧客への売上高で記載。地域別売上高は管理数値をベースとした概算値

商品・サービスデータ

IP別売上高

グループ全体におけるIP別売上高（国内外合計）

	(億円)	
	2022年3月期	2023年3月期
「ウルトラマン」シリーズ	168	195
「仮面ライダー」シリーズ	295	321
「ガンダムシリーズ」	1,017	1,313
「スーパー戦隊」シリーズ	50	65
それいけ！アンパンマン	93	99
「DRAGON BALL」シリーズ	1,276	1,445
NARUTO -ナルト-	230	187
「プリキュア」シリーズ	58	56
ONE PIECE	441	863

注：セグメント間取引消去前売上高を記載

トイホビー事業におけるIP別売上高（国内）

	(億円)	
	2022年3月期	2023年3月期
「ウルトラマン」シリーズ	80	92
「仮面ライダー」シリーズ	228	230
「ガンダムシリーズ」	442	605
「スーパー戦隊」シリーズ	44	56
それいけ！アンパンマン	87	93
「DRAGON BALL」シリーズ	197	225
「プリキュア」シリーズ	57	56
ポケモン	59	88
ONE PIECE	100	319

注：セグメント間取引消去前売上高を記載

エンターテインメントユニット（デジタル事業）

・主要カテゴリ別売上高

	(億円)	
	2022年3月期	2023年3月期
ネットワークコンテンツ	1,855	1,940
家庭用ゲーム	1,744	1,598

・ネットワークコンテンツ タイトル数
（2023年3月期末時点、国内合計）

SNS	3タイトル
アプリ (Google Play向け)	26タイトル
アプリ (App Store向け)	26タイトル

株式会社バンダイナムコエンターテインメント

- ・家庭用ゲーム主要タイトル シリーズ別累計出荷本数 (PC版含む)
 - ・「スーパーロボット大戦」シリーズ
1991.4 ~ 2023.3までの累計出荷本数 2,024万本
 - ・「鉄拳」シリーズ
1995.3 ~ 2023.3の累計出荷本数 5,500万本
 - ・「テイルズ オブ」シリーズ
1995.12 ~ 2023.3の累計出荷本数 2,929万本
 - ・「NARUTO -ナルト-」関連シリーズ
2009.1 ~ 2023.3までの累計出荷本数 3,252万本
 - ・「ダークソウル」シリーズ
2011.9 ~ 2023.3の累計出荷本数 3,518万本
- 注：バンダイナムコエンターテインメントが発売元の海外販売分を集計
（株）フロム・ソフトウェア国内販売分を除く

- ・ネットワークコンテンツ主要タイトル 累計ダウンロード数
 - ・ONE PIECE トレジャークルーズ
2014.5 ~ 2023.3累計 1億ダウンロード
 - ・ドラゴンボールZ ドッカンバトル
2015.1 ~ 2023.3累計 3.5億ダウンロード
 - ・アイドルマスター シンデレラガールズ スターライトステージ
2015.9 ~ 2023.3累計 2,500万ダウンロード
 - ・NARUTO × BORUTO 忍者BORUTAGE
2017.11 ~ 2023.3累計 1億ダウンロード
 - ・ドラゴンボール レジェンズ
2018.5 ~ 2023.3累計 7,000万ダウンロード
 - ・ONE PIECE バウンティラッシュ
2019.1 ~ 2023.3累計 8,000万ダウンロード

エンターテインメントユニット（トイホビー事業）

株式会社バンダイ

- 玩具
- ・ウルトラマンソフビ ヒーロー & 怪獣
1983 ~ 2023.3 1億731万個
 - ・スーパー戦隊シリーズ合体変形ロボット
1979 ~ 2023.3 3,121万個
 - ・デジタルモンスター本体シリーズ
1997.6 ~ 2023.3 1,441万個
 - ・仮面ライダー変身ベルト (平成・令和ライダー)
2000.2 ~ 2023.3 1,576万個
 - ・初代たまごっち (海外含む)
1996.11 ~ 1999.3 4,000万個
 - ・たまごっち (海外含む)
2004.3 ~ 2023.3 5,153万個
 - ・ドンジャラシリーズ
1984 ~ 2023.3 402万個
 - ・アンパンマンパソコンシリーズ (タブレット端末型含む)
1999 ~ 2023.3 251万個

カプセルトイ (ガシャポン)

- ・ガシャポン (100円 ~ 2,000円)
1977 ~ 2023.3の累計出荷数 39億99万個
- ・カプセルレスシリーズ
2015.10 ~ 2023.3の累計出荷数 6,205万個

カード・トレーディングカード

- ・カードダスシリーズ
1988 ~ 2023.3の累計出荷数 120億2,920万枚
- ・データカードダスシリーズ
2005.3 ~ 2023.3のカード累計出荷数 30億5,130万枚

食品玩具 (食玩)

- ・食玩 (全商品)
1995 ~ 2023.3の累計出荷数 27億4,264万個

菓子・食品

- ・クレヨンしんちゃんチョコビシリーズ
2005.3 ~ 2023.3の累計出荷数 2億5,816万個
- ・キャラパキシリーズ
2017.10 ~ 2023.3の累計出荷数 1億2,262万個
- ・食ベマス (和菓子) シリーズ
2015.4 ~ 2023.3の累計出荷数 1,529万個

アパレル

- ・変身シリーズ
1991 ~ 2023.3の累計出荷数 1,165万枚
- ・光るパジャマシリーズ
2007.10 ~ 2023.3の累計出荷数 784万枚

生活用品

- ・びっくらたまご (たまご型炭酸ガス入浴剤)
2002.3 ~ 2023.3の累計出荷数 1億8,184万個
- ・ベルサイユのばらリキッドアイライナーシリーズ (海外含む)
2007.9 ~ 2023.3の累計出荷数 699万本

商品・サービスデータ

株式会社BANDAI SPIRITS

コレクターズフィギュア

- ・超合金魂
1997.12 ~ 2023.3の累計出荷数 369万個
- ・聖闘士聖衣神話 (セイントクロスミス)
2003.11 ~ 2023.3の累計出荷数 566万個
- ・ROBOT魂
2008.10 ~ 2023.3の累計出荷数 635万個
- ・S.H. Figuarts
2008.2 ~ 2023.3の累計出荷数 1,761万個

プラモデル

- ・ガンダムシリーズのプラモデル総累計出荷数
2023年3月期末現在 7億6,111万個
ガンダム (リアル) シリーズのプラモデル
1980.7 ~ 2023.3の累計出荷数 5億7,705万個
ガンダム (SD) シリーズのプラモデル
1987.7 ~ 2023.3の累計出荷数 1億8,406万個
- ・Figure-riseシリーズ
2009.12 ~ 2023.3の累計出荷数 881万個

プライズ

- ・2023年3月期プライズ化アイテム数
総アイテム数 1,539点
造形品 (フィギュアなど) 703点
縫製品 (ぬいぐるみなど) 606点
雑貨品 230点

海外展開商品・サービス

- ・聖闘士聖衣神話 (セイントクロスミス)
2003.10 ~ 2023.3の累計出荷数 915万個
- ・ガンダムアクションフィギュア
2000.1 ~ 2023.3の累計出荷数 1,717万個
- ・ガンダムプラモデル
2000.1 ~ 2023.3の累計出荷数 1億852万個
- ・WEBサービス「GUNDAM.INFO」
2011.3 ~ 2023.3の映像作品視聴実績 22億4,518万視聴

株式会社メガハウス

- ・オセロシリーズ
1973 ~ 2023.3の累計出荷数 2,604万個
- ・ルービックキューブシリーズ
1980 ~ 2023.3の累計出荷数 1,582万個

株式会社シー・シー・ピー

- ・SWEEPLUSクリーナーシリーズ
2011.8 ~ 2023.3の累計出荷数 197万台
- ・コードレス回転モップクリーナーシリーズ
2015.7 ~ 2023.3の累計出荷数 135万台

サンスター文具株式会社

- ・ぬりえシリーズ
2009.7 ~ 2023.3の累計出荷数 1億174万冊
- ・STICKYLEシリーズ (スティック型文具)
2010.11 ~ 2023.3の累計出荷数 1,154万個

株式会社ハート

- ・季節催事向け商品出荷実績
2022年クリスマス向け菓子 83アイテム、269万個
2023年バレンタインデー向け菓子 153アイテム、400万個
2023年ホワイトデー向け菓子 92アイテム、194万個

IPプロデュースユニット

・カテゴリ別売上高 (億円)

	2022年3月期	2023年3月期
パッケージ販売	124	115
アニメ制作・ライセンス・配信・イベント他	675	702
合計	799	817

注：2023年3月期よりセグメント区分を一部変更したため、2022年3月期の実績についてもセグメント区分を組み替えて記載

株式会社バンダイナムコフィルムワークス

- ・映像パッケージソフト累計販売数
「ガンダムシリーズ」
1987.12 ~ 2023.3の累計販売数 2,131万本・枚
「ウルトラマン」シリーズ
1988.1 ~ 2023.3の累計販売数 856万本・枚
- ・2023年3月期映像パッケージソフト全体
2020.4 ~ 2023.3の累計販売数 127万本・枚
- ・アニメーションのオンデマンド配信の累計有料視聴数 (TVODおよびSVODの合算値、無料配信を除く)
2002.10 ~ 2023.3累計 6億69万1,461再生
- ・アニメーションのオンデマンド配信のコンテンツ数
2023年3月期末現在 5,095作品

株式会社バンダイナムコフィルムワークス、株式会社バンダイナムコピクチャーズ、株式会社SUNRISE BEYOND

- < 作品の総作品点数、総時間 (2023年3月期末現在) >
- ・著作権保有コンテンツ数 1,113作品
 - ・著作権保有コンテンツ総時間数 5,834時間

株式会社バンダイナムコミュージックライブ

- ・総管理楽曲数 (2023年3月期末現在)
- ・原盤管理楽曲数 約70,000曲
- ・出版管理楽曲数 約37,600曲

注：2017年3月期より自社管理楽曲数を集計

アミューズメントユニット

・主要カテゴリ別売上高 (億円)

	2022年3月期	2023年3月期
業務用ゲーム	208	310
アミューズメント施設	615	735

アミューズメント施設

・2023年3月期末の施設数

地域	直営店	レベニューシェア*	その他
国内	243	683	10
海外	21	15	0
合計	264	698	10

*レベニューシェア：業務用ゲームのオペレーション売上歩率配分方式

・既存店売上高 (前期比)

	2022年3月期	2023年3月期
国内	115.5%	114.9%

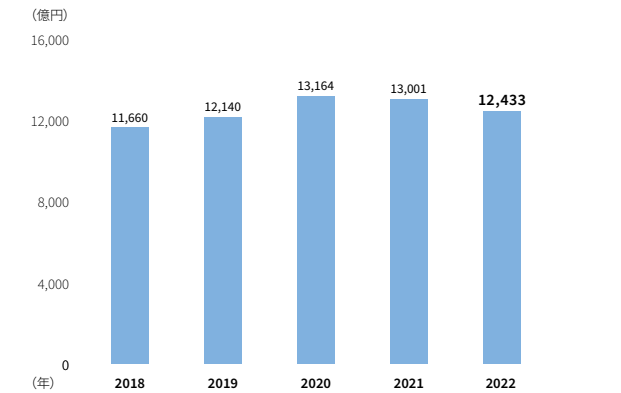
株式会社花やしき

- ・浅草花やしき入園者数 (2023年3月期) 54万人

エンターテインメントユニット (デジタル事業)

ゲームアプリ市場 (日本)

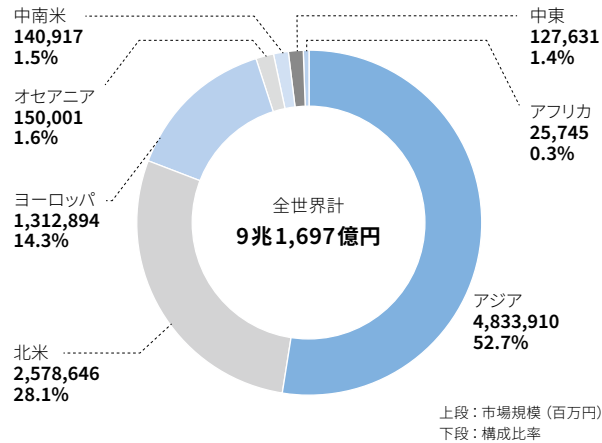
ゲームアプリ市場規模の推移



出典元: 「ファミ通ゲーム白書2023」(株)角川アスキー総合研究所
 ※ 2023年7月時点での情報に基づいて作成
 ゲームアプリ: スマートフォン、タブレット向けに提供されているゲーム(フィーチャーフォン向けのSNSプラットフォームで動作するものを含む)

ゲームアプリ市場 (グローバル)

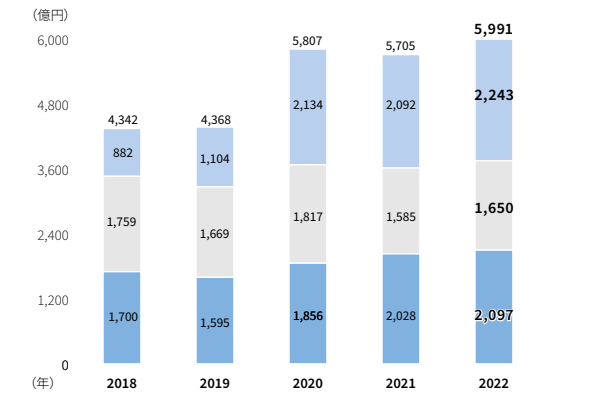
エリア別売上構成比率 (2021年)



出典元: 「ファミ通モバイルゲーム白書2023」(株)角川アスキー総合研究所
Airnow Data

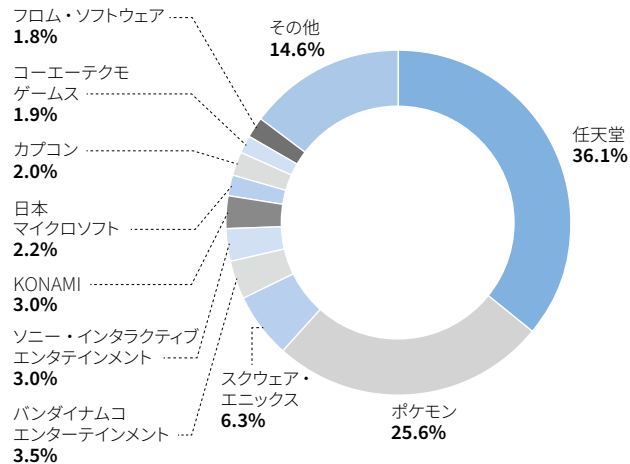
家庭用ゲーム市場 (日本)

家庭用ゲーム市場規模の推移



出典元: 「ファミ通ゲーム白書2023」(株)角川アスキー総合研究所
 ※ 2023年7月時点での情報に基づいて作成

メーカー別販売本数シェア (2022年)



集計期間: 2021年12月27日~2022年12月25日
 出典元: 「ファミ通ゲーム白書2023」(株)角川アスキー総合研究所
 ※ 社名は集計時点のものを記載

エンターテインメントユニット (トイホビー事業)

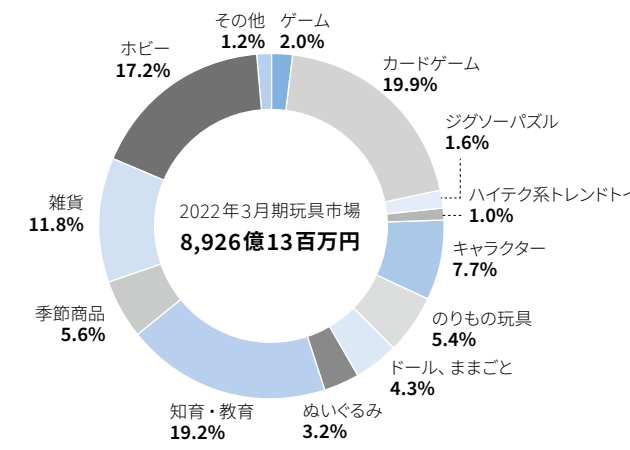
玩具市場 (日本)

[玩具市場規模]

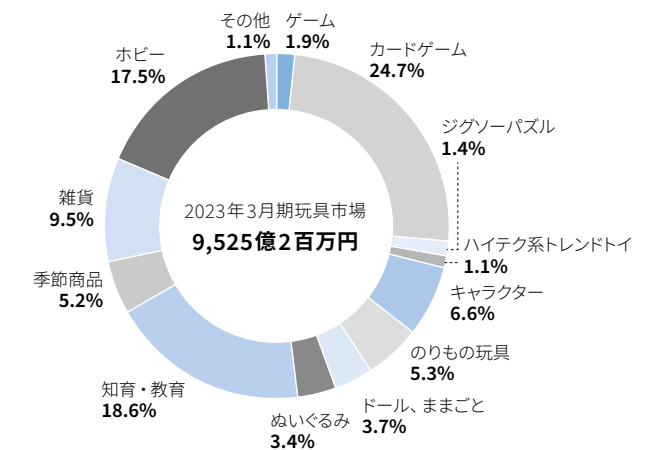
(単位: 百万円、メーカー希望小売価格ベース)

大分類	2022年3月期	2023年3月期
ゲーム 一般ゲーム(含ミニ電子ゲーム)、立体パズル、その他(含パーティー、ジョーク、手品)	18,151	18,028
カードゲーム、トレーディングカード	177,646	234,891
ジグソーパズル	14,644	12,965
ハイテク系トレンドトイ インタラクティブトイ、ロボット、パソコン関連	9,037	10,507
キャラクター TVキャラクター玩具、映画キャラクター玩具など	68,734	62,883
のりもの玩具 ミニカー、レールトイ、トイR/C、電動、その他(レーシング、ゼンマイ、金属玩具他)	47,973	50,291
ドール、ままごと 着せかえ(人形、ハウス)、ままごと、アーツ&クラフト、コレクショントイ、抱き人形、その他(含アクセサリー、子供向け化粧品)	38,031	35,230
ぬいぐるみ キャラクターぬいぐるみ、ノンキャラクターぬいぐるみ	28,331	32,041
知育・教育 ブロック、木製、プリスクール、幼児キャラクター、ベビー(ベビートイ、バストイ、ベビー用品)、乗用(含ベビーカー、チャイルドシート、三輪車)、その他(含楽器、電話、絵本、遊具、キッズビデオ、電動動物)	171,428	177,458
季節商品 玩具花火、スマートトイ、サマーグッズ、小物玩具、スポーツトイ、スポーツ用品、アウトドア	49,618	49,874
雑貨 バラエティ、ギフト、インテリア、ハウスウェア、ステーショナリー、アパレル、その他(含クリスマス用品、ハロウィングッズ他)	104,984	90,747
ホビー プラモデル、ホビーR/C、鉄道模型、フィギュア、その他	153,303	166,800
その他	10,733	10,787
合計	892,613	952,502

2022年3月期



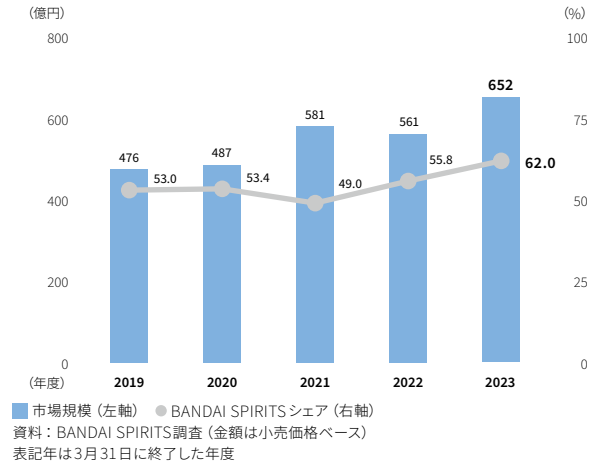
2023年3月期



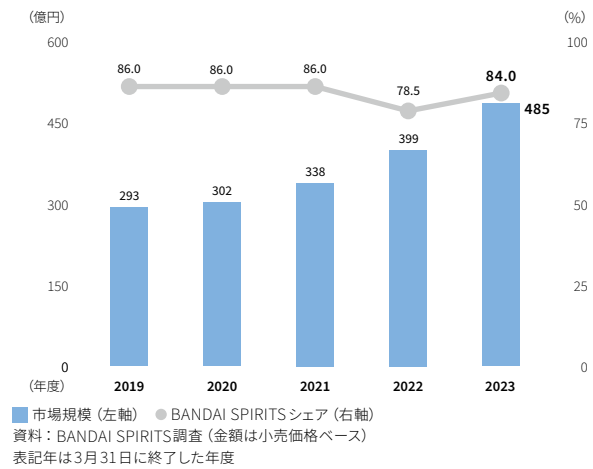
※ 原則として日本玩具協会の会員企業ならびに東京おもちゃショー出展企業のオリジナル商品、自社ブランド商品が創出する市場が対象
 ※ ドラッグストア流通などは除外 ※ ホビーは模型流通含む
 資料: 一般社団法人日本玩具協会調査

プラモデル市場（日本）

プラモデル全般の市場の推移

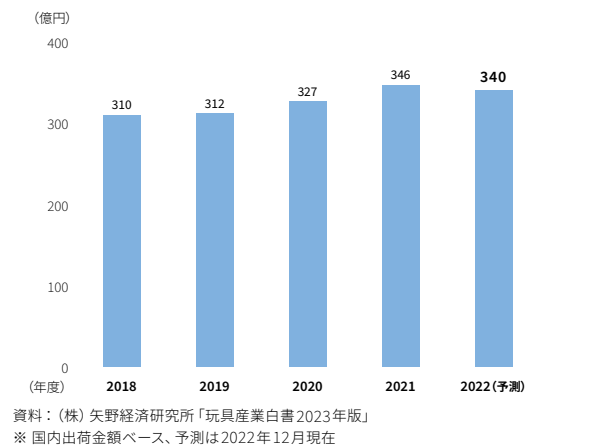


キャラクタープラモデル市場の推移



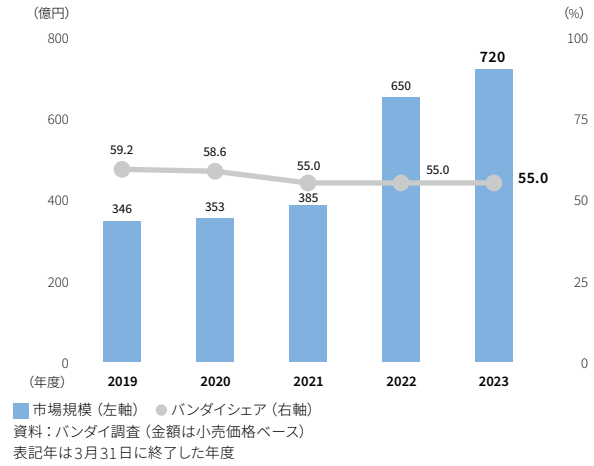
フィギュア市場（日本）

フィギュア市場規模の推移



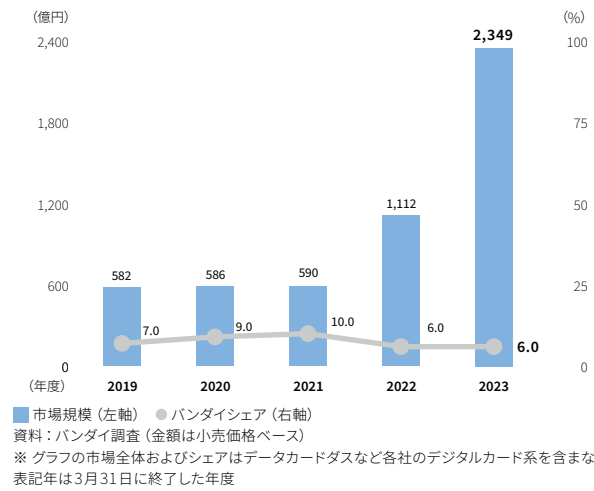
カプセルトイ市場（日本）

カプセルトイ市場の推移

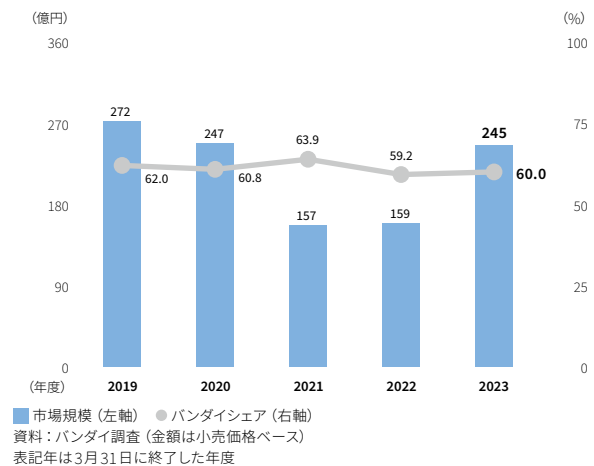


カード市場（日本）

カードゲーム市場規模の推移

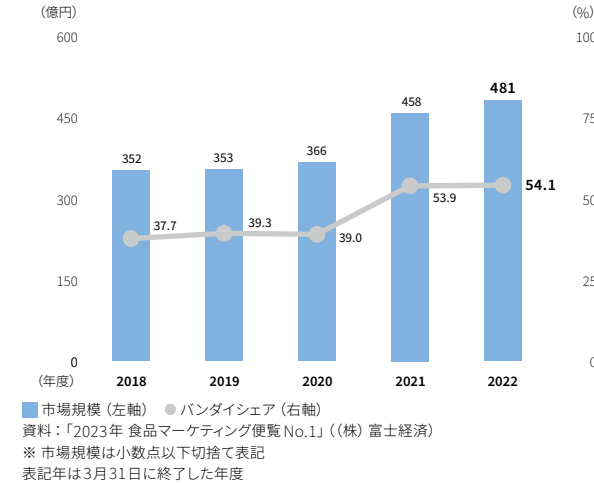


デジタルカード系市場規模の推移



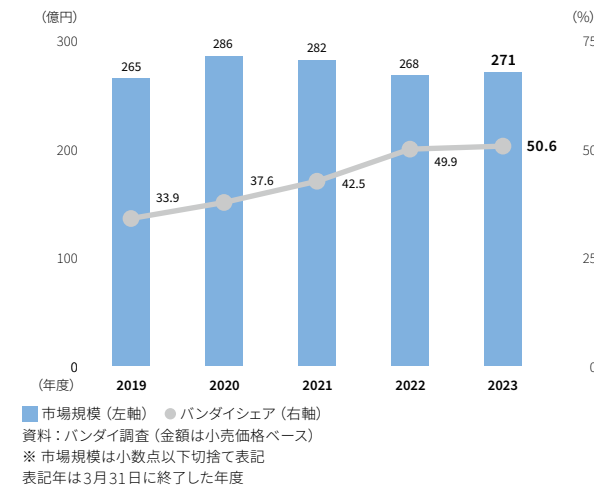
食玩市場（日本）

食玩市場の推移



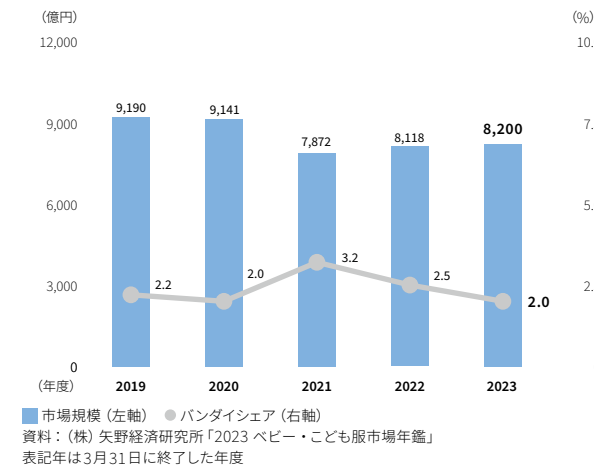
子ども用トイレタリー市場（日本）

子ども用トイレタリー市場の推移



ベビー・子ども服市場（日本）

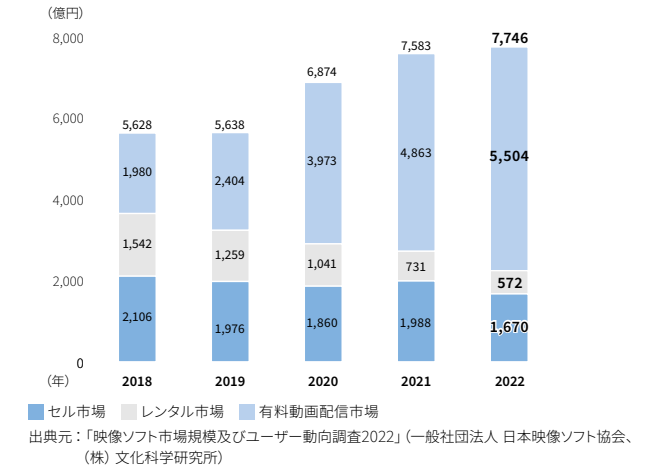
ベビー・子ども服市場の推移



IPプロデュースユニット

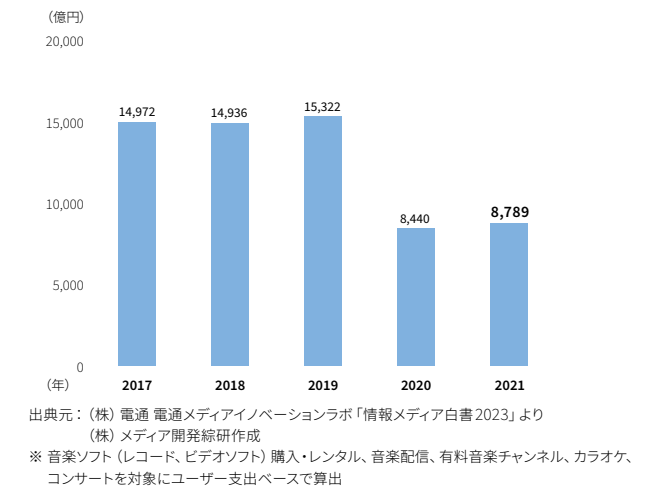
映像ソフト市場（日本）

映像ソフト市場規模の推移

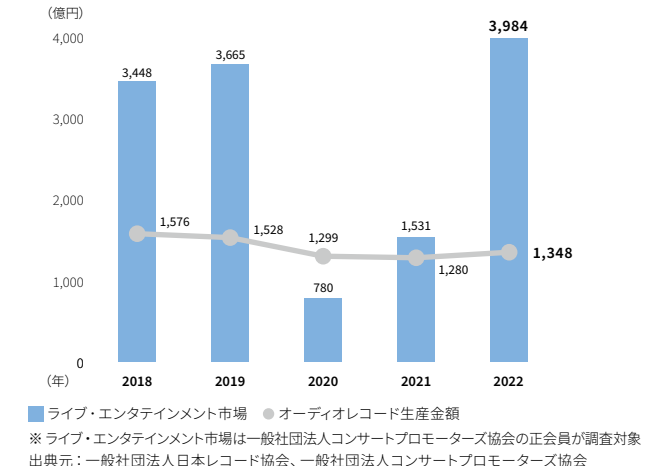


音楽コンテンツ市場（日本）

音楽関連市場規模の推移

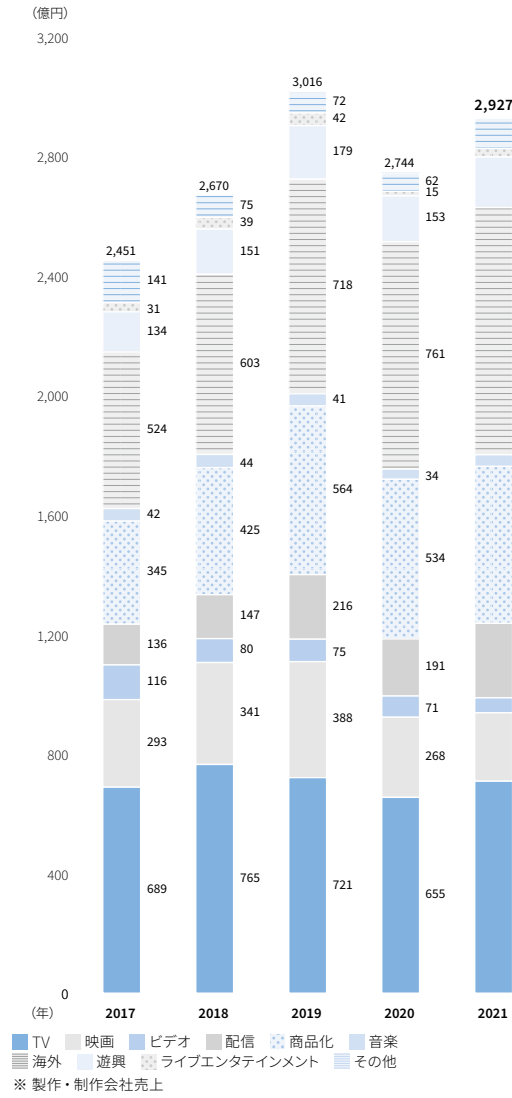


オーディオレコード生産金額とライブ・エンタテインメント市場規模の推移

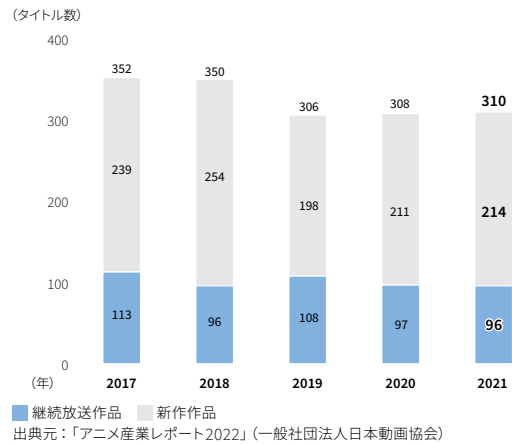


アニメ市場（日本）

アニメ業界市場規模の推移



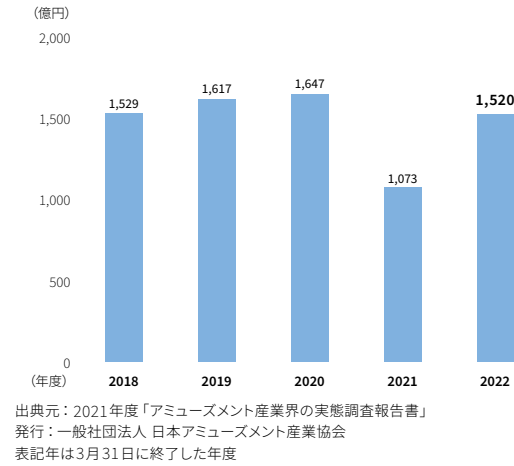
TVアニメタイトル数



アミューズメントユニット

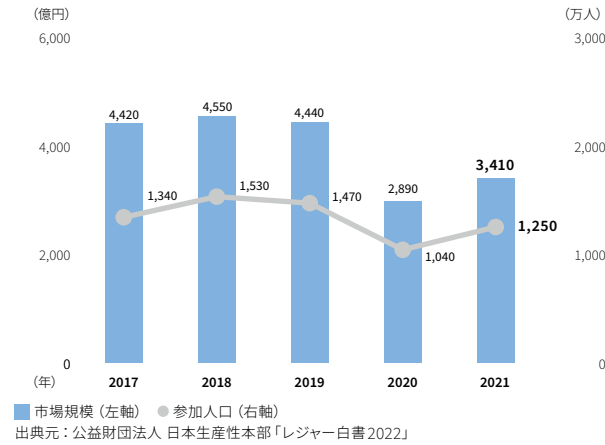
業務用ゲーム市場（日本）

業務用アミューズメント機の製品販売高の推移

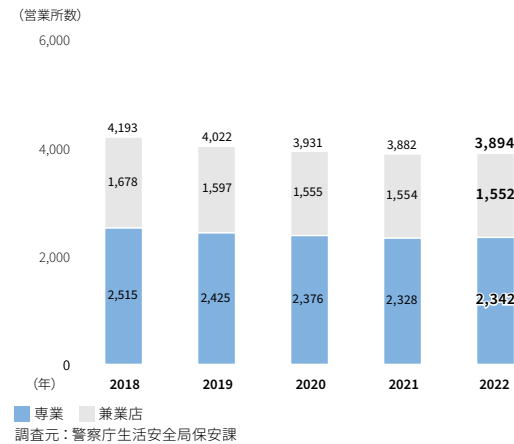


アミューズメント施設市場（日本）

アミューズメント施設 市場規模と参加人口（ゲームセンター）



5号店（ゲームセンター等営業）の営業所数の推移



マテリアリティ別 各事業セグメント 2023年3月期活動報告

バンダイナムコグループでは、各事業セグメントおよび関連事業会社が、マテリアリティ別にKPIを設定し、活動に取り組んでいます。グループサステナビリティ委員会およびグループサステナビリティ部において活動状況の進捗確認と振り返りを行うとともに、定期的に当社取締役会にて報告を行い、計画の達成を目指しています。2023年3月期における各事業セグメントおよび関連事業会社の活動状況は以下の通りです。

事業セグメント	2023年3月期活動報告	マテリアリティ				
		地球環境との共生	適正な商品・サービスの提供	知的財産の適切な活用と保護	尊重しあえる職場環境の実現	コミュニティとの共生
デジタル事業	<ul style="list-style-type: none"> IPを活用した環境負荷低減のためのサステナブル活動の実施。 ⇒ライブイベントで来場者の不要衣類を回収（アップサイクルを予定）。 ⇒環境省とのコラボレーションでプラスチック資源循環をPR。 	○				○
	<ul style="list-style-type: none"> IPを活用した地域貢献活動の実施。 ⇒（協）岡山県備前焼陶友会とのコラボレーションキャンペーンを実施。 ⇒神奈川県相模原市とのコラボレーションキャンペーンを実施。 ⇒江東区の地域防災力向上を目指す会が主催するイベント「豊洲ぼうさいFestiv@l 2023」とのコラボレーションキャンペーンを実施。 			○	○	
	<ul style="list-style-type: none"> 国連気候行動サミットにて発足された「Playing For The Planet Alliance」へ継続参加。 スマートフォンゲーム「PAC-MAN」にて環境保護啓発イベントを実施。 ⇒ユニークユーザー数100万人以上。 	○			○	
	<ul style="list-style-type: none"> オンプレミスサーバーの完全クラウド化によるCO₂排出量の削減。 	○				
トイホビー事業	<ul style="list-style-type: none"> リサイクルスキームの拡大。 ⇒ガシャポンカプセルリサイクル 空カプセル回収量30トン ⇒ガンバラリサイクル ランナー回収量21.8トン 	○				
	<ul style="list-style-type: none"> バンダイ新品質基準の施行（2022年4月完全施行）、品質基準の改訂実施。 		○			
	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産権の侵害対策におけるグローバル対応可能国の拡大。 ⇒12カ国 			○		
	<ul style="list-style-type: none"> （株）バンダイおよび（株）BANDAI SPIRITSの日本向け製品を生産する海外最終梱包工場に対して監査を実施。 ⇒監査率100% 災害時における子どもの心のケアを目的としたオリジナルのおもちゃを企画・製造。 ⇒（一社）災害防止研究所が主催する「防災グッズ大賞 2022」で「審査員特別賞」を受賞。 				○	

事業セグメント	2023年3月期活動報告	マテリアリティ				
		地球環境との共生	適正な商品・サービスの提供	知的財産の適切な活用と保護	尊重しあえる職場環境の実現	コミュニティとの共生
IPプロデュース事業	<ul style="list-style-type: none"> IPを活用した地域貢献とエデュケーショナル活動を実施。⇒静岡県沼津市の地域活性化支援継続。⇒会社訪問の積極的受け入れと内容の充実。⇒宇宙開発フォーラムへの協力継続。⇒横浜市の小中学生を対象とした「ガンダムエデュケーショナルプログラム」を継続実施。2021年11月より累計53校、3,738名参加。 			○		○
	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮したライブやイベントの運営。⇒照明器具のLED化、舞台道具および装置の再利用。⇒電子チケット化の推進。⇒環境配慮グッズの企画販売。 	○				
	<ul style="list-style-type: none"> チャリティライブへのアーティストの参加。 				○	
アミューズメント事業	<ul style="list-style-type: none"> エコアミューズメント（環境配慮設計）の推進。⇒クレーンゲーム機「CLENA3」の省エネ化。初代「クレナフレックス」比約56%の消費電力削減。 	○				
	<ul style="list-style-type: none"> 業務用アミューズメント筐体の安全性を検証。⇒新製品を中心に28件のセーフティレビューを実施。 		○			
	<ul style="list-style-type: none"> アミューズメント施設の定期安全点検を継続実施。⇒(株)バンダイナムコアミューズメントが運営するすべての施設が対象。 		○			
	<ul style="list-style-type: none"> 「AOU青少年アドバイザー」資格取得の推進。⇒(株)バンダイナムコアミューズメントの対象店舗責任者資格取得率：99% 		○		○	
関連事業会社 ((株)バンダイロジバル・(株)ロジバルエクスプレス)	<ul style="list-style-type: none"> ドライバー研修の実施。⇒エコドライブ研修、エコドライブ活動コンクール参加、ドライバーコンテスト実施。 		○			
	<ul style="list-style-type: none"> 安全性優良事業所（Gマーク、プライバシーマーク、ISO9001、AEO（認定通関業者））の維持。 		○			
	<ul style="list-style-type: none"> 労働環境の整備（就労体系の再構築）。 				○	
	<ul style="list-style-type: none"> 地区交通安全協会と連動し、交通安全運動を通じて地域に貢献。 					○
	<ul style="list-style-type: none"> 地域自治体（葛飾区）との災害時物資保管に関する協定。（2018年度協定済み） 					○
ホールディングス	<ul style="list-style-type: none"> Bandai Namco Holdings China Co., Ltd. が中国上海蘇州で無形文化遺産「古籍修復」の体験イベントを実施。 					○

環境関連データ

【対象範囲】バンダイナムコグループ国内外全社
【管理基準】総排出量

		2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	
CO ₂ 排出量	Scope1 (t-CO ₂)	6,156	6,271	6,039	5,540	6,131	
	Scope2 (t-CO ₂)	63,907	59,975	51,836	50,945	49,256	
	Scope3 (t-CO ₂) *1	-	-	-	-	755,556	
	カテゴリー1	購入した製品・サービス	-	-	-	-	515,051
	カテゴリー2	資本財	-	-	-	-	79,233
	カテゴリー3	Scope1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	-	-	-	-	5,598
	カテゴリー4	輸送、配送（上流）	-	-	-	-	7,158
	カテゴリー5	事業から出る廃棄物	-	-	-	-	2,339
	カテゴリー6	出張	-	-	-	-	956
	カテゴリー7	雇用者の通勤	-	-	-	-	2,098
	カテゴリー8	リース資産（上流）	-	-	-	-	対象外
	カテゴリー9	輸送、配送（下流）	-	-	-	-	対象外
	カテゴリー10	販売した製品の加工	-	-	-	-	対象外
	カテゴリー11	販売した製品の使用	-	-	-	-	11,695
	カテゴリー12	販売した製品の廃棄	-	-	-	-	131,425
	カテゴリー13	リース資産（下流）	-	-	-	-	対象外
カテゴリー14	フランチャイズ	-	-	-	-	対象外	
カテゴリー15	投資	-	-	-	-	対象外	
電気	非再生可能エネルギー (kWh)	127,022,975	123,864,626	111,406,837	109,787,373	107,387,004	
	再生可能エネルギー (kWh) *2	0	0	0	0	9,347,411	
	合計	127,022,975	123,864,626	111,406,837	109,787,373	116,734,415	
営業車燃料	営業車（ガソリン）(ℓ)	212,951.5	185,797.6	172,508.6	175,052.4	262,769.8	
	営業車（ディーゼル）(ℓ)	1,420,057.3	1,528,785.7	1,633,589.0	1,469,708.8	1,552,020.4	
	営業車（液化石油ガス：LPG）(t)	3.2	3.2	2.0	2.4	0.6	
	営業車（天然ガス）(m ³)	589.8	4,630.2	588.7	0	0	
燃料	揮発油（ガソリン）(ℓ)	1,255.88	810.71	1,296.23	883.09	1,748.20	
	灯油(ℓ)	10,808.9	14,223.4	7,531.7	5,403.0	6,564.1	
	軽油(ℓ)	0	0	0	0	0	
	A重油(kℓ)	2.38	2.42	2.00	2.26	2.10	
	石油ガス(t)	24.44	18.17	15.64	12.66	15.30	
	可燃性天然ガス(m ³)	0	0	0	0	0	
	都市ガス(m ³)	833,732.83	788,598.89	594,525.22	564,521.29	639,309.40	
その他の燃料	蒸気(GJ)	0	0	0	0	16	
	温水(GJ)	195.41	126.3	135.62	176.92	3,642.60	
	冷水(GJ)	2,133.13	1,026.02	893.31	1,039.87	910.60	
水	用水使用量(m ³)	191,111.59	185,274.92	134,441.61	149,175.90	167,514.00	
	排水量(m ³)	188,348.04	182,635.90	134,334.34	146,594.20	164,335.00	
廃棄物	一般廃棄物(kg)	1,865,172.0	1,757,772.9	1,370,751.2	1,658,942.0	2,078,405.9	
	産業廃棄物(kg)	1,596,628.5	1,442,364.5	2,099,314.6	3,484,766.7	2,453,357.4	
	リサイクル量(kg)	862,601.5	829,768.1	841,815.7	900,283.0	1,095,035.1	
環境	罰金件数(件)	0	0	0	0	0	
コンプライアンス	罰金以外の制裁措置(件)	0	0	0	0	0	
	紛争解決メカニズムに提起された事案(件)	0	0	0	0	0	

*1 (株)バンダイナムコエンターテインメントのスマートフォンゲームおよび家庭用ゲーム事業、(株)バンダイのトイ事業、(株)バンダイナムコフィルムワークスの映像コンテンツ事業、(株)バンダイナムコミュージックライブのライブ事業、(株)バンダイナムコアミューズメントの施設運営事業が対象となります。
*2 環境パフォーマンスデータ集計システム上、太陽光や風力を利用した自家発電設備による電力使用量は計上していません。また、2022年3月期の再生可能エネルギー使用（購入）量は非再生可能エネルギー使用量に合算されています。

【CO₂排出量 Scope3算出方法】
カテゴリー1：調達額に排出原単位を乗じて算出。（内部取引を除く）
カテゴリー2：設備投資額に排出原単位を乗じて算出。（グループ全体）
カテゴリー3：各エネルギーの消費量に排出原単位を乗じて算出。
カテゴリー4：輸送サービスの購入額に排出原単位を乗じて算出。

カテゴリー5：各廃棄物の発生量に処理方法別の排出原単位を乗じて算出。
カテゴリー6：移動手段別の交通費支給額に排出原単位を乗じて算出。スマートフォンゲームおよび家庭用ゲーム事業のみ、従業員数に排出原単位を乗じて算出。
カテゴリー7：交通費支給額に対し、すべて旅客鉄道を使用した場合の排出原単位を乗じて算出。
カテゴリー11：電池を使用する製品に対し、2回電池交換をすることを前提に、製品の販売数量、電池使用本数、平均電池寿命から消費電力量を算出し、排出原単位を乗じて算出。（トイ事業のみ）
カテゴリー12：販売した製品の重量に排出原単位を乗じて算出（施設運営事業を除く）。ただしトイ事業は部門別売上シェア10%商材の平均重量を使用、映像コンテンツ事業とライブ事業は販売数量トップ10の平均重量を使用。
注：カテゴリー8、9、10、13、14、15は対象外

人事関連データ

【対象範囲】
2023年3月期対象：(株)バンダイナムコエンターテインメント、(株)バンダイ / (株)BANDAI SPIRITS、(株)バンダイナムコフィルムワークス、(株)バンダイナムコミュージアム

雇用形態従業員数

		2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
正社員(人)	男性	1,967	2,160	2,254	2,297	2,324
	女性	830	1,008	1,092	1,146	1,147
	合計	2,797	3,168	3,346	3,443	3,471
準社員(人)	男性	928	967	930	925	981
	女性	964	982	969	972	999
	合計	1,892	1,949	1,899	1,897	1,980
契約社員(人)	男性	128	146	143	137	99
	女性	49	83	83	84	67
	合計	177	229	226	221	166
臨時雇用者数(人)	男性	1,394	1,422	1,175	1,225	1,381
	女性	2,156	2,035	1,694	1,668	1,842
	合計	3,550	3,457	2,869	2,893	3,223
合計(人)	男性	4,417	4,695	4,502	4,584	4,785
	女性	3,999	4,108	3,838	3,870	4,055
	合計	8,416	8,803	8,340	8,454	8,840

社員データ

		2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
新入社員採用者数(人)	男性	70	91	94	83	70
	女性	60	79	68	54	54
	合計	130	170	162	137	124
新入社員定着率(%)*1	男性	—	99.1	98.8	95.9	89.1
	女性	—	96.3	98.6	95.0	91.8
	合計	—	97.8	98.7	95.5	90.2
中途社員採用者数(人)	男性	35	57	67	40	69
	女性	35	44	31	40	39
	合計	70	101	98	80	108
離職者数(人)*2	男性	85	58	49	76	97
	女性	38	41	22	51	48
	合計	123	99	71	127	145
平均勤続年数(年)	男性	11.4	11.0	11.0	11.2	10.9
	女性	8.6	8.2	8.3	8.7	8.5
	合計	10.9	10.1	10.1	10.4	10.1
平均年齢(歳)*3	男性	41.4	40.5	40.6	40.5	40.4
	女性	35.1	35.0	35.3	35.6	35.7
	合計	39.4	38.7	38.9	38.9	38.8

*1 入社3年後の4月初時点における在籍数より算出
*2 正社員のみ、定年退職、グループ内転籍者を除く
*3 正社員のみ

女性管理職データ

	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
女性管理職(人)	120	147	157	168	174
全体に占める割合(%)	17.4	18.1	19.1	21.5	21.2

年次有給休暇取得率

	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
年次有給休暇取得率(%)	57.2	76.0	56.0	70.4	70.1
有休取得日数(日)	—	12.7	9.5	12.1	12.2

その他人事情報

		2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
育児休暇取得者数(人)	男性	9	17	19	20	21
	女性	102	71	69	53	123
	合計	111	88	88	73	144
育児休暇取得率(%)	男性	—	—	—	—	28.4
	女性	—	—	—	—	100.0
	合計	—	—	—	—	99.0
育児休暇復職率(%)	男性	100.0	100.0	100.0	100.0	98.4
	女性	100.0	100.0	97.0	100.0	100.0
	合計	100.0	100.0	98.0	100.0	99.0
介護休暇利用者数(人)	男性	0	0	1	0	0
	女性	1	1	1	0	1
	合計	1	1	2	0	1
障がい者雇用*4	人数(人)	151	157	176	182	191
	全体に占める割合(%)	2.06	2.17	2.20	2.34	2.27
	労働安全衛生方針の対象人数(人)	4,417	4,695	4,502	4,584	4,785
従業員一人当たりの月平均残業時間(時間)*5	男性	—	—	—	16.96	17.98
	女性	—	—	—	—	—
	合計	—	—	—	—	—
労災件数(件)	52	61	53	92	78	
健康診断受診率(%)	—	—	—	—	99.9	
ストレスチェック受検率(%)	—	—	—	—	97.9	

*4 特例子会社バンダイナムコウィルの適用会社である連結子会社が対象
*5 各人の「(年間総労働時間数の合計) - (所定労働時間1800H) ÷ 12カ月」の平均
なお、管理監督者・短時間労働者・裁量労働制適用者を除く

社員教育関連

		2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
キャリア開発に関して定期的なレビューを受けている社員の割合(%)	男性	100	100	100	100	100
	女性	100	100	100	100	100
	合計	100	100	100	100	100

ガバナンス関連データ

	合計	男性	女性	
取締役(人)*1	社内取締役(人)	14	12	2
	うち、取締役監査等委員	9	8	1
	社外取締役(人)	5	4	1
	うち、独立役員に指定されている人数	5	4	1
	うち、取締役監査等委員	3	2	1

*1 2023年6月時点での数値

組織形態	監査等委員会設置会社	
ガバナンス機関における任期(年)	取締役	1
開催回数(回)*2	取締役会	19
	独立役員会	1
	人事報酬委員会	9
参加率(%)*2	取締役会	98.9
	独立役員会	100
	人事報酬委員会	100
インセンティブ付与に関する施策の実施状況	取締役(監査等委員および社外取締役を除く)	業績連動賞とおよび業績条件付株式報酬制度の実施

*2 2023年3月期

コンプライアンス関連データ

	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
贈賄等に関する事案の発生件数(件)	0	0	0	0	0
反競争的行為に関する事案の発生件数(件)	0	0	0	0	0

沿革

注：バンダイとナムコの経営統合以前のグループ会社の歴史
社名・地名は記載年月当時のもの

バンダイの歴史

1950年代

- 1950 ● 7月 ● 東京都台東区浅草菊屋橋で(株)萬代屋を設立(社長・山科直治)。資本金100万円。セルロイド製玩具を中心に金属玩具(乗り物)、ゴム製浮き輪などの販売業務を行う
- 9月 ● オリジナル商品の第1号「リズムボール」誕生
- 1951 ● 3月 ● 輸出販売を開始
- 4月 ● 金属玩具オリジナル第1号「B26」を発売
- 1953 ● 4月 ● 輸出業務の拡大に伴い、出荷場および倉庫を台東区浅草駒形に新築
- 7月 ● 「検品室」を設置し全品検査を行う
- バンダイブランドの金属玩具の品質向上および新商品の開発研究のため「研究部」を設立
- 運輸部(バンダイロジパルの前身)スタート
- 1955 ● 1月 ● 和楽製作所(バンダイ工業の前身)創立
- 6月 ● 社屋を台東区浅草駒形2丁目に新築
- バンダイカンパニーの頭文字を組み合わせたBCマーク制定
- 11月 ● 「保証玩具」第1号「1956年型トヨベッククラウン」を発売し、業界初の品質保証制度を実施



トヨベッククラウン

- 1958 ● 7月 ● 初めてテレビ宣伝を開始。「赤函ビーシー保証玩具」のキャッチフレーズで放映
- 1959 ● 7月 ● 金属モデルカーを商品化し、世界の自動車シリーズと銘打って発売
- 品質がすべてに優先するというモットーを表現したシンボルマーク(通称ばんざいマーク)制定

1960年代

- 1960 ● 3月 ● 海外への直接販売実施
- 7月 ● (株)バンダイトイズカンパニーを設立(71年に(株)バンダイオーバーシーズサプライに移管)
- 1961 ● 6月 ● 和楽製作所をビーシー工業に社名変更(66年5月にはバンダイ工業へ変更)
- 7月 ● 萬代屋をバンダイに社名変更。資本金2,000万円

- 1963 ● 9月 ● バンダイ運輸(株)を設立
- 11月 ● ニューヨークに駐在員を置き、米国での販売開始
- 12月 ● 業務拡大に伴い、社屋を台東区浅草駒形1丁目に新築移転
- 「鉄腕アトム」が初のテレビキャラクター商品として登場



鉄腕アトム
©手塚プロダクション

- 1964 ● 1月 ● 「ハンドルリモコン自動車」が大ヒット
- 1965 ● 1月 ● 「レーシングカーセット」が圧倒的なブームに
- 10月 ● 玩具工業団地が栃木県壬生に完成、操業開始
- 1966 ● 7月 ● 「クレイジーフォーム」を発売。テレビ宣伝を中心とする集中キャンペーンにより3ヶ月で240万本を販売
- バンダイの新商標(バンダイベビー)を制定

- 1967 ● 5月 ● バンダイ自動車(株)を設立
- 「水中モーターシリーズ」がヒット
- 電動玩具「サンダーバードシリーズ」発売
- 8月 ● 模型部を設置し、プラスチックモデルを販売
- 1968 ● 「わんぱくフリッパー」大ヒット。ニューヨーク国際発明新製品展で金賞受賞
- 10月 ● 「サービスセンター」開設
- 1969 ● 11月 ● 静岡県清水市に工場を取得。「自動車シリーズ」をはじめ「サンダーバード2号」、「昆虫シリーズ」などのプラスチックモデルの製造を開始

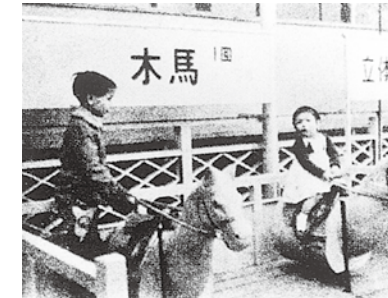
1970年代

- 1970 ● 9月 ● (株)ジャパントンカ設立
- 1971 ● 5月 ● (株)バンダイ模型を設立
- 7月 ● キャラクター玩具専門メーカーとして(株)ポピーを設立
- 1973 ● 3月 ● 「ミニミニフィッシュ」発売
- 10月 ● 「ジャンボマシンダーマジンガーZ」が第4回国際見本市おもちゃコンクールでグランプリ受賞

ナムコの歴史

1950年代

- 1955 ● 6月 ● 東京都大田区池上に(有)中村製作所を設立(社長・中村雅哉)。資本金30万円。横浜の百貨店屋上に2台の電動木馬を設置し、アミューズメント事業を開始



横浜の百貨店屋上に設置された2台の「木馬」

- 1957 ● 本社事務所を東京・銀座に開設。娯楽機器販売を開始
- 1959 ● (株)中村製作所に組織変更(資本金500万円)

1960年代

- 1963 ● 東京・日本橋三越屋上に遊園施設「ロードウェイライド」を設置。その後三越各店に展開を拡大
- 1965 ● 製造部門発足。同部門開発の「ベリスコープ」が大ヒット
- 1966 ● 東京都大田区に本社工場を設置。開発・製造部門を拡充
- 中村製作所のブランドマーク使用開始



ロードウェイライド



中村製作所

- 1967 ● 大阪事務所を大阪・難波に開設

1970年代

- 1970 ● 東京都大田区矢口に矢口工場を設置
- ドライブシミュレーションゲーム機「レーザー」を開発。当時としては画期的な立体モデルを使用した投影装置が人気となりヒット機器に



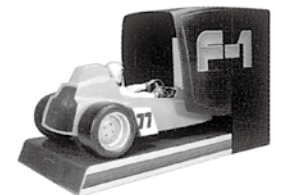
レーザー
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 1971 ● NAMCOブランドの使用を開始
- 1974 ● アタリ・ジャパン(株)を米国アタリ社から取得。ビデオゲーム事業に進出
- 1975 ● ロボット技術の研究に本格着手。リンカーン大統領のロボットを開発



「リンカーン大統領」のロボット

- 1976 ● ドライブシミュレーションゲーム機「F-1」を開発。国内外で人気に



ドライブシミュレーションゲーム機「F-1」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 1977 ● (株)ナムコに社名変更(資本金2億4,000万円)
- NAMCO ENTERPRISES ASIA LTD. 設立
- ミラー投影型のガンシューティングゲーム機「シュータウェイ」を開発

- 1978 ● 6月 ● 米国カリフォルニア州にNAMCO AMERICA INC. 設立
- 潜水艦ゲーム機「サブマリン」開発
- オリジナル業務用ビデオゲーム機第1号「ジービー」登場



「ジービー」

- 1979 ● シューティングゲーム機「ギャラクシアン」登場。若者を中心に人気となり、国内外で大ヒットに
- 球速測定機「ピッチイン」開発



「ギャラクシアン」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

沿革

注：バンダイとナムコの経営統合以前のグループ会社の歴史
社名・地名は記載年月当時のもの

バンダイの歴史

- 1974 ● 「超合金マジンガー Z」が大ヒット
- 12月 ● グループ3社(バンダイ、ポピー、ジャパントンカ)による業界初の新聞全面広告実施



超合金マジンガー Z
©ダイナミック企画

- 1975 ● 1月 ● シンボルマークとロゴ変更。バンダイグループ9社統一のワールドワイドな飛躍を表現
- 10月 ● 米国モノグラム社と提携
- 1976 ● 8月 ● ジャンボマジンガーをアメリカ・マテル社に輸出。77年には「ショーグン」の名でベストセラーに
- 10月 ● 「動く絵本」を刊行し、出版事業に進出
- 11月 ● (株)ポピー壬生工場設立

- 1977 ● 4月 ● 自動販売機によるカプセルトイの販売を開始
- 6月 ● 香港に海外生産拠点として萬代(香港)有限公司設立
- 「モグラたたきゲーム」発売。翌78年には大ヒットし、日経のヒット商品番付にも登場



モグラたたきゲーム

- 1978 ● 9月 ● (株)バンダイ出版設立
- 「LSI ベースボール」を発売し、以後エレクトロニクスゲームのヒットを生む
- 10月 ● 米国に現地法人として、BANDAI AMERICA INCORPORATED を設立し、米国の販売拠点とする

- 1979 ● 11月 ● ビーアイ電子、ビーアイ壬生を設立
- 「キャンディ・キャンディかんごふさんバッグ」が女兒キャラクター史上に残る大ヒットに

1980年代

- 1980 ● 5月 ● 代表取締役社長に山科誠、会長に山科直治就任
- 7月 ● プラスチックモデルのガンダムを発売し、大ブームを呼ぶ
- ジャパントンカを(株)マミートへ社名変更
- 11月 ● (株)セレンテを設立



「ガンダムRX-78プラモデル」
©創通・サンライズ

- 1981 ● 1月 ● 欧州の販売拠点としてBANDAI FRANCE S.A. を設立
- 3月 ● 玩具菓子分野に進出

- 1982 ● 6月 ● イギリスにBANDAI UK LTD. を設立
- 10月 ● アニメーション、映画の企画制作部門としてフロンティア事業部発足
- 11月 ● (株)エモーション設立。日本ビデオ協会公認第1号のビデオショップ「エモーション」オープン

- 1983 ● 3月 ● ポピー、バンダイ模型、バンダイ工業、バンダイオーパーシーズ、マミート、セレンテ、バンダイ出版の7社を吸収合併。資本金7億1,139万円に
- CIを導入。新生バンダイの理念を明確化し、「夢・クリエイション」を掲げる
- 4月 ● カプセルトイ「キン肉マン」を発売、大ヒット
- 8月 ● アパレル事業部を新設
- 映像パッケージソフトの販売を行う(株)エイ・イー企画を設立
- 12月 ● 業界初のオリジナル・ビデオ・アニメーション「ダロス」発売

- 1984 ● 4月 ● オリジナルビデオソフトの音楽と映像から作り出された「エアコンディション・シリーズ」発売
- 10月 ● プラスチックモデルのガンダムシリーズが発売以来1億個を突破
- 12月 ● 香港に福萬(香港)有限公司を設立

- 1985 ● 5月 ● 中国福建省に日中合弁会社・中国福萬(福建)玩具有限公司を設立。中国市場に進出
- 11月 ● ファミコンソフト第1弾「キン肉マン マッスルタッグマッチ」発売。100万本の大ヒット

- 1986 ● 1月 ● バンダイが東京証券取引所第二部上場(資本金107億9,600万円)
- 2月 ● 「猫ニャンぼー」大ヒット
- 9月 ● 「子象物語」の制作協力で映画分野に進出



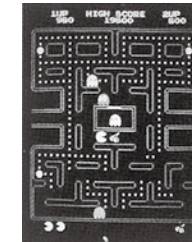
「猫ニャンぼー」

- 1987 ● 「聖闘士星矢」関連商品がヒット
- 3月 ● タイに合弁会社BANDAI AND K.C. CO., LTD. 設立
- オリジナル長編アニメ「王立宇宙軍オネアミスの翼」を公開
- 「クイッカー」を発売。“生活実用遊具”をコンセプトに生活実用雑貨分野に進出
- 5月 ● 山科直治会長、相談役に就任
- ウォルトディズニー社と契約。ビデオ作品を販売

ナムコの歴史

1980年代

- 1980 ● 「バックマン」登場。国内外で大ヒット
- ナムコ主催によりアマチュアロボット愛好家が参加する「マイクロマウス」全国大会を開催



「バックマン」

- 迷路脱出口ロボット「ニヤムコ」登場



「ニヤムコ」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 1981 ● 迷路脱出口ロボット「マッピー」登場
- 知的所有権部門設立。自社の著作権保護対策に本格的に取り組みを開始

- 1982 ● レースゲーム機「ポールポジション」開発

- 1983 ● シューティングゲーム機「ゼビウス」登場。美しいグラフィックやストーリー性が大人気に
- 「国際科学技術博覧会」のマスコットキャラクター「コスモ星丸」のロボットを開発



「ゼビウス」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 1984 ● 家庭用ゲーム第1弾ファミコン向け「ギャラクシアン」を発売
- RPGゲーム機「ドルアーガの塔」シリーズ第1弾登場



「ギャラクシアン」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 1985 ● 東京都大田区に新社屋を竣工
- 携帯型意思伝達装置「トーキングエイド」開発

- 1986 ● (株)イタリアントマトに資本参加
- 科学技術の発展を目的に財団法人ニューテクノロジー振興財団を設立
- 菓子プライズマシン「スウィートランド」登場
- ファミコンソフト「プロ野球ファミリースタジアム」発売



「プロ野球ファミリースタジアム」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 1987 ● ミュージカル「スターライトエクスプレス」日本公演に冠協賛
- 業界初の通信機能搭載ドライブゲーム「ファイナルラップ」開発



「ファイナルラップ」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 1988 ● ナムコが東京証券取引所第二部上場(資本金55億5,000万円)
- 横浜市に横浜未来研究所を開設
- CG制作会社「JCGL」と提携。受注制作から映像提供まで幅広いCG映像事業に参入
- 初のオリジナル映画作品「未来忍者慶雲機忍外伝」を東京国際ファンタスティック映画祭で上映。業務用ビデオゲームとしても発売
- 初のポリゴン使用のレースゲーム「ウイニングラン」開発



「ウイニングラン」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 1989 ● マツダ(株)と「ユーノス・ロードスター・ドライビング・シミュレータ」を共同開発
- アクションゲーム機「ワニワニパニック」を開発



「ワニワニパニック」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

沿革

注：バンダイとナムコの経営統合以前のグループ会社の歴史
社名・地名は記載年月当時のもの

バンダイの歴史

- 1988 4月 ・メディア事業部新設。映像事業への本格的な進出
- 7月 ・カードダス販売開始
- 8月 ・バンダイが東京証券取引所第一部に上場
- ・ミュージカル「森は生きている／12ヶ月のコーナ」に協賛

- 1989 1月 ・台東区駒形に本社ビル完成
- 10月 ・音楽分野に進出（『エモーション』レーベル発足）

1990年代

- 1990 1月 ・(株)新正工業が(株)ユタカに社名変更
- 8月 ・バンダイ運輸が店頭(現 JASDAQ)市場に登録
- ・「魔法使いサリー・スピカタクト」100万個突破

- 1991 2月 ・台湾に現地法人、台湾旺代股份有限公司を設立
- 4月 ・サントリー(株)と提携し、玩具をプラスした飲料の「きゃらか〜ん」が大ヒット
- 10月 ・(株)トウショウ、(株)ダイリン、(株)セイコーが合併。(株)ハビネットがスタート

- 1992 9月 ・バンダイ運輸が(株)バンダイロジパルに社名を変更
- 10月 ・バンダイの映像事業をバンダイビジュアル(株)へ移管

- 1993 ・「美少女戦士セーラームーン」関連商品が大ヒット



「美少女戦士セーラームーンシリーズ」
©武内直子・P/NP・テレビ朝日・東映アニメーション

- ・「Power Rangers」関連商品が米国で大ヒット



「Power Rangers」関連商品
©1993 SABAN INT.

- 1994 3月 ・(株)サンライズをグループ会社化

- 1995 7月 ・テクニカルデザインセンター(栃木)が稼働
- 10月 ・米国にBANDAI HOLDING CORP.、BANDAI DIGITAL ENTERTAINMENT CORP.、BANDAI ENTERTAINMENT INC.の3社を設立

- 1996 3月 ・「ピピンアットマーク」発売
- ・上海に萬代貿易(上海)有限公司を設立
- 11月 ・「たまごっち」発売



「たまごっち」
©BANDAI

- 1997 4月 ・「ハイパーヨーヨー」発売



「ハイパーヨーヨー」
©BANDAI

- 6月 ・「たまごっち」の機能を内蔵したPHS「たまびっち」発売。
- ・代表取締役社長に茂木隆が就任
- 7月 ・グループ会社の(株)科研、(株)エンジェル、(株)ピーアイが合併し、(株)メガハウスが誕生
- 8月 ・ハビネットが株式を店頭公開(現東証プライム市場上場)
- 10月 ・創業者の山科直治が死去(10月28日、享年79歳)

- 1998 12月 ・ハビネットが東京証券取引所第二部に上場

- 1999 3月 ・代表取締役社長に高須武男が就任
- ・新携帯ゲーム機「ワンダースワン」発売
- ・NTTドコモiモード向けコンテンツ第1弾「どこでも遊ベガス」のサービス開始
- ・「デジモンアドベンチャー」がアニメ化
- 5月 ・ガンダムプラモデルが累計3億個突破
- 9月 ・バンダイビジュアル製作参加の「HANA-BI」が第54回ベネチア国際映画祭で金獅子賞受賞
- 10月 ・米マテル社と共同事業展開に関する契約締結(2003年12月に日本市場での契約終了)
- 11月 ・おしゃべりするぬいぐるみ「プリモプエル」発売

ナムコの歴史

1990年代

- 1990 9月 ・NAMCO AMERICA INC. が米国で業務用ゲーム機の直接販売を開始
- ・NAMCO AMERICA INC. がアタリオベレーションズINC.取得。米国でアミューズメント施設展開
- ・家庭用ゲームの米国拠点ナムコ・ホームテックINC.設立
- ・「国際花と緑の博覧会」にハイパーエンターテインメント構想に基づく大型遊園施設「ギャラクシアン³」「ドルアーガの塔」出展営業
- ・アクションゲーム機「コスモギャングス」開発

- 1991 9月 ・東京証券取引所第一部上場(資本金69億8,400万円)
- 11月 ・英国ロンドンにNAMCO EUROPE LTD. 設立
- ・大型アミューズメント施設「プラボ千日前店」を大阪に出店

- 1992 2月 ・東京・二子玉川に期間限定・史上初の都市型テーマパーク「ナムコ・ワンダーエッグ」開園



「ナムコ・ワンダーエッグ」

- ・ヨーロッパでの生産およびイギリスでの販売強化のためプレント・レジャー LTD. 設立

- 1993 9月 ・英国にNAMCO OPERATIONS EUROPE LTD. 設立
- ・初のデベロッパー事業による複合アミューズメント施設「ナムコ・ワンダーシティ鶴見」を横浜市鶴見区に展開

- ・リアルタイム3次元CGシステム基板「システム22」搭載のレースゲーム機「リッジレーサー」登場
- ・米国最大手のアミューズメント施設運営会社アラジンズ・キャッスルINC. 取得



「リッジレーサー」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- ・中国との合併事業として上海南夢宮有限公司設立
- ・「ナムコ・ワンダーエッグ」隣接地に遊びの錬金術国家「たまご帝国」オープン

- 1994 9月 ・プレイステーション向け「リッジレーサー」をハードと同時に発売
- ・開発拠点の横浜クリエイティブセンターを横浜市神奈川区に開設
- ・米国のナムコグループ2社を合併し、NAMCO CYBERTAINMENT INC. 設立

- ・(株)ソニー・コンピュータエンタテインメントとの共同開発による3次元CGシステム基板「システム11」を使用したポリゴン格闘ゲーム機「鉄拳」登場



「鉄拳」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 1995 7月 ・体感ゲーム機「アルペンレーサー」を開発
- 12月 ・「テイルズ オブ」シリーズ第1弾スーパーファミコン向け「テイルズ オブファンタジア」発売

- 1996 7月 ・日本最大級のビルイン型テーマパーク「ナムコ・ナンジャタウン」を東京・池袋にオープン



「ナムコ・ナンジャタウン」

- ・スペイン、フランス、ドイツ、イスラエルに子会社を設立
- ・都市型複合アミューズメント施設「ナムコ・ワンダータワー京都店」を出店

- 1997 1月 ・日活(株)と資本提携(2005年に解消)
- ・北米市場における複合型アミューズメント施設経営を行うためXS ENTERTAINMENT INC. 設立

- 8月 ・英国ロンドンの旧市庁舎内に大型エンターテインメント施設「ナムコ・ステーション」カウンティホール店を出店
- ・米国CG学会「SIGGRAPH」にCG映像3作品入選

- 1999 8月 ・ドリームキャスト向け武器格闘ゲーム「ソウルキャリバー」発売
- 10月 ・家庭用ゲーム開発会社(株)モノリスソフト設立
- 11月 ・バリアフリーエンターテインメント構想を提唱し、遊びと福祉の融合を目指し介護ビジネスに参入
- 12月 ・iモード向けに携帯電話サイト「ナムコ・ステーション」を開発。コンテンツ事業を拡充
- ・パチンコ機用液晶ユニットの供給を開始

沿革

注：バンダイとナムコの経営統合以前のグループ会社の歴史
社名・地名は記載年月当時のもの

バンダイの歴史

2000年代

- 2000** ● **3月** ・ハピネットが東京証券取引所第一部に上場
・韓国にBANDAI KOREA CO., LTD. を設立
・iモード向けコンテンツが人気を集め、有料加入者数が100万人を突破
- 4月** ・ネットワーク事業部設立
・キャラクター研究所を設立
- 6月** ・(株)創通エージェンシー(現(株)創通)に出資
- 9月** ・バンダイよりネットワーク事業を分社し、バンダイネットワークス(株)を設立
- 10月** ・(株)バンプレストが東京証券取引所第二部に上場
・セイカノート(株)と資本提携

- 2001** ● **3月** ・BHK TRADING LTD. 設立
- 7月** ・「ガシャポンHGシリーズ」の累計販売数が1億個を突破
- 8月** ・キャラクターカルチャーイベント「C3 PRE」で1/12ザク(全高約1.5m)を出展し話題に



「ハイパーハイブリッドモデルMS-06F ZAKU II」
©創通・サンライズ

- 11月** ・バンダイビジュアルがJASDAQ上場
- 2002** ● **3月** ・オンデマンド配信会社(株)バンダイチャンネルを設立
- 7月** ・(株)ツクダオリジナルと資本提携
・バンプレストが東京証券取引所第一部に上場

- 2003** ● **3月** ・ツクダオリジナルと(株)ワクイコーポレーションが営業統合し、(株)パルボックスに社名変更
- 4月** ・ユタカが(株)ポピーに社名変更
・オリジナルキャラクター「.hack」のゲームソフトが日米で累計100万本を出荷



©Project .hack

- 5月** ・菓子メーカーの(株)東ハトに出資
- 7月** ・キャラクターミュージアム「バンダイミュージアム」オープン(2006年8月営業終了)

- 8月** ・世界2位のブロックメーカー・メガブロック社と提携し、ブロック事業初参入
・バンダイビジュアル製作参加の「座頭市」が第60回ベネチア国際映画祭で監督賞受賞
- 10月** ・バンダイチャンネルの有料視聴数300万話突破
- 12月** ・バンダイネットワークスがJASDAQ上場
・バンダイビジュアルが東京証券取引所第二部に上場

- 2004** ● **3月** ・「かえってきた! たまごっちプラス」発売
・「ガンダムシリーズ」家庭用ゲーム累計出荷数2,000万本突破
- 4月** ・新本社ビル完成
軽井沢にアンティーク・トイを展示した「ワールドトイミュージアム」オープン(2007年11月閉館)
・バンプレストが浅草・花やしき事業承継の基本契約を締結
- 5月** ・バンダイビジュアル製作参加の「誰も知らない」主演の柳楽優弥さんがカンヌ国際映画祭で最優秀男優賞受賞
・中国・上海「動漫形象博覧会」に参加。中国初のキャラクターイベント。9日間で10万人集客
・カードダス「金色のガッシュベル!! THE CARD BATTLE」累計販売数3億枚突破



©雷句誠/小学館・フジテレビ・東映アニメーション

- 7月** ・「スチームボーイ」(大友克洋監督)公開
・(株)サンリオのキャラクター「シナモロール」の包括的マスターライセンス契約締結
- 11月** ・「祝ケータイかいソー! たまごっちプラス」発売
・劇団飛行船の活動を支援

- 2005** ● **4月** ・メガハウスにパルボックスが営業の一部を譲渡

ナムコの歴史

2000年代

- 2000** ● **3月** ・プレイステーション2向け「リッジレーサーV」をハードと同時発売
- 4月** ・デジタルハリウッド(株)と共同でゲームスクール「ナムコDHゲームラボ」開校
・環境機器の開発などを行う(株)ナムコ・エコロテック設立
- 6月** ・家庭用ゲーム「ミスタードリラー」をハード3機種向けに同時発売
- 8月** ・ソニー・コンピュータエンタテインメントとプレイステーション2との共通性を持つ基板「システム246」を共同開発
- 10月** ・シャープ(株)のザウルス向けに「パックマン」配信を許諾
- 12月** ・東京・台場に「南夢宮電子遊戯世界東京皮蛋城」を出店
・インターネット空間「知・好・楽」を名古屋に出店(2011年譲渡)
・プレイステーション2向け「MotoGP」発売



「ミスタードリラー」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 2001** ● ・新空間プロデュース集団「チームナンジャ」を編成。第1弾として「横濱カレーミュージアム」を受注(事業主体:(株)マタハリ)
- 2月** ・業務用ゲーム「太鼓の達人」が登場



「太鼓の達人」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 10月** ・(株)ベネッセコーポレーションとの協業により未就学児向けコミュニケーションパーク「しましまタウン」を川崎市に出店

- 2002** ● **1月** ・家庭用ゲーム「ことばのパズルもじびったん」発売
- 2月** ・任天堂(株)と家庭用ゲーム事業で業務提携
・高画質シールプリント「美肌惑星」登場
・「ナムコ・ワンダーパーク札幌」出店
- 5月** ・代表取締役社長に高木九四郎が就任



「美肌惑星」
©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 7月** ・ナムコ・ナンジャタウン内に「池袋餃子スタジアム」オープン



「池袋餃子スタジアム」

- 11月** ・プレイステーション2向けに「テイルズ オブ デスティニー2」発売

- 2003** ● **3月** ・家庭用ゲームの開発会社(株)ナムコ・テイルズスタジオ設立
・家庭用ゲーム「ソウルキャリバーII」をハード3機種向けに同時発売
- 7月** ・最大6人まで同時プレイ可能な大型プライズゲーム「ビッグスイートランド」登場
- 8月** ・ニンテンドーゲームキューブ向け「テイルズ オブ シンフォニア」発売
- 11月** ・東京都目黒区に「自由が丘スイーツフォレスト」オープン
- 12月** ・多人数対戦型ビデオゲーム機「ドラゴンクロニクル」登場

- 2004** ● **2月** ・大阪・梅田に「浪花餃子スタジアム」オープン
- 3月** ・プレイステーション2向け「塊魂」発売
・ナムコ・ホームテックとフラッグシップ社がPCゲームの開発・販売についてパートナー契約締結
- 7月** ・レーシングゲーム機「湾岸ミッドナイト MAXIMUM TUNE」登場
- 10月** ・デイスサービスセンター「かいかや」を神奈川県横浜市に開設
- 12月** ・兵庫県神戸市に「神戸スイーツハーバー」オープン

- 2005** ● **2月** ・千葉県船橋市に「東京パン屋ストリート」オープン
- 4月** ・代表取締役社長に石村繁一が就任

沿革

注：社名・地名は記載年月当時のもの

バンダイナムコグループの歴史

2005年5月～

- 2005**
- 5月** ・バンダイとナムコの経営統合を発表
 - 9月** ・バンダイとナムコの経営統合により、持株会社(株)バンダイナムコホールディングスを設立し、代表取締役社長に高須武男が就任。バンダイナムコグループが誕生
 - 11月** ・「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」セルDVD第10巻までの累計出荷数が100万枚突破
 - 12月** ・バンダイ、ナムコにおける関連会社株式管理業務の一部を会社分割により、バンダイナムコホールディングスへ移管



©創通・サンライズ

- 新型カードダスマシン「データカードダス」が人気に



©パードスタジオ/集英社・東映アニメーション

- 1月** ・北米の組織再編を実施。Namco Holding Corp. を社名変更したNAMCO BANDAI Holdings (USA) Inc. が地域持株会社に
- ・バンダイナムコホールディングスがバンダイロジバルを完全子会社化
- 2月** ・バンダイビジュアルが東京証券取引所第一部に上場
- 3月** ・プラモデル生産拠点「バンダイホビーセンター」が静岡県静岡市にオープン
- ・「たまごっちプラス」シリーズの全世界累計販売数が2,000万個突破
- ・ナムコから施設事業を新設分割し、新生・(株)ナムコ設立
- ・バンダイの家庭用ゲーム部門と、ナムコの家庭用ゲーム・業務用ゲーム・携帯電話ゲーム部門などを統合し、(株)バンダイナムコゲームスを設立
- 5月** ・音楽会社の(株)ランティスを子会社化
- ・(株)バンダイナムコウィルが障がい者の雇用の促進等に関する法律に定める特例子会社に認定
- 6月** ・バンダイナムコホールディングスがバンプレストを完全子会社化
- 9月** ・アミューズメントとキャラクターマーチャンダイジングが融合した大型施設「ナムコワンダーパークヒーローズベース」(神奈川県川崎市)オープン
- ・バンダイが(株)シー・シー・ピーを子会社化
- 11月** ・バンダイナムコゲームスとバンプレストの共同開発による業務用ゲーム「機動戦士ガンダム 戦場の絆」導入

- 2007**
- 1月** ・欧州地域において地域持株会社NAMCO Holdings UK LTD. を設立し、事業会社の再編を実施
 - 3月** ・バンダイナムコホールディングスが、東映(株)、東映アニメーション(株)、(株)角川グループホールディングスとの資本・業務提携を強化
 - 4月** ・バンダイが「おもちゃのまちバンダイミュージアム」(栃木県)を運営開始
 - 5月** ・バンダイ、石森グループ、伊藤忠商事(株)が資本・業務提携
 - ・バンダイナムコホールディングスが(株)不二家の株式を取得
 - 8月** ・バンダイビジュアル製作参加の「監督・ぼんざい!」が第64回ベネチア国際映画祭にて「GLORY TO THE FILMMAKER! 賞」を受賞
 - 11月** ・自販機カプセル玩具「アースカプセル昆虫採集」が「第4回エコプロダクツ大賞」のエコプロダクツ部門で農林水産大臣賞を受賞
 - 12月** ・家庭用ゲーム「テイルズ オブ」シリーズが全世界累計販売数1,000万本を突破

- 2008**
- 1月** ・バンダイと(株)ティー・ワイ・オー、(株)円谷プロダクションが資本・業務提携
 - 2月** ・バンダイナムコホールディングスがバンダイネットワークスとバンダイビジュアルを株式交換により完全子会社化
 - 4月** ・バンプレストの家庭用ゲーム・業務用ゲーム事業をバンダイナムコゲームスに移管統合。景品事業を中心に展開する新生バンプレストを設立
 - ・グループ主要会社の管理機能をバンダイナムコホールディングスに集約
 - ・香港にアミューズメント施設「ワンダーパークプラス」をオープン
 - ・玩具の生産における管理・品質保証強化を目的にBANDAI (SHENZHEN) CO., LTD. 設立
 - 7月** ・PS3・Xbox 360用ソフト「ソウルキャリバーIV」を発売、200万本を突破



©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 9月** ・カードゲーム「Battle Spirits」発売
- 10月** ・BD・DVDソフト「コードギアス 反逆のルルーシュ」シリーズ累計100万枚を突破
- 11月** ・「BEN10」の玩具が世界市場で大ヒット

バンダイナムコグループの歴史

- 2009**
- 2月** ・Infogrames Entertainment SA の子会社のAtari Europe SAS が新設するゲームソフト販売会社へのNAMCO BANDAI Games Europe S.A.S. による出資に関する株式売買契約を締結
 - 3月** ・サンスター文具(株)との資本業務提携に伴い、文具事業を行う(株)セイカを解散
 - ・バンダイナムコゲームスが(株)ディースリーを子会社化
 - ・バンダイナムコホールディングスが東京証券取引所開催の2008年度「東証ディスクロージャー表彰」を受賞
 - 4月** ・3カ年のグループ中期計画をスタート
 - ・バンダイナムコホールディングス代表取締役会長に高須武男が、代表取締役社長に石川祝男が就任
 - ・バンダイナムコゲームスを存続会社、バンダイネットワークスを消滅会社とする吸収合併を実施
 - ・バンダイビジュアルを存続会社、(株)アニメチャンネルを消滅会社とする吸収合併を実施
 - 7月** ・「GREEN TOKYO ガンダムプロジェクト」の一環として、東京都の潮風公園に18メートルのガンダムの実物大立像を設置



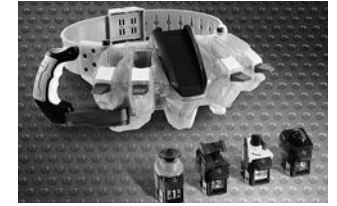
©創通・サンライズ

- ・NAMCO BANDAI Partners S.A.S. を完全子会社化
- 10月** ・(株)バンダイナムコオンラインを設立
- 12月** ・中南米における玩具ホビー事業強化を目的に、メキシコにBANDAI CORPORACION MEXICO S.A.de C.V. 設立

2010年代

- 2010**
- 2月** ・バンダイナムコグループ・リスタートプランを発表
 - ・「機動戦士ガンダムUC(ユニコーン)」シリーズの世界同時期クロスメディア展開スタート
 - 4月** ・(株)バンダイナムコライブクリエイティブを設立
 - ・キャラクターパッケージ型遊戯施設第1弾として「たまごっちアイドルパーク」「なりきりアスレチック ウルトラヒーローズ」を導入開始
 - 11月** ・家庭用ゲーム「NARUTO -ナルト- 疾風伝ナルティメットストーム2」のワールドワイドでの出荷本数が発売1か月で100万本を突破

- 2011**
- 仮面ライダーシリーズが大ヒット

「変身ベルトDXフォーゼドライバー」
©2011 石森プロ・テレビ朝日・ADK・東映

- サンライズ製作のTVアニメ「TIGER & BUNNY」がヒット



©SUNRISE/T&B PARTNERS

- 4月** ・(株)バンプレソフトと(株)ベックが統合し、(株)B.B.スタジオに

- 2012**
- 「アイドルマスター」が家庭用ゲーム、ソーシャルゲームなどさまざまなカテゴリーで話題に
 - グループオリジナルIP「アイカツ!」関連商品がヒット



©BNP/BANDAI, DENTSU, TV TOKYO

- 4月** ・「挑戦・成長・進化」をビジョンに掲げた中期計画をスタート
- ・バンダイナムコホールディングスの代表取締役社長に石川祝男が、代表取締役副社長に上野和典が就任
- ・バンダイナムコゲームスのコンテンツ開発部門を分社化し、(株)バンダイナムコスタジオを設立
- ・東京・台場にガンダムシリーズの最先端エンターテインメントスペース「ガンダムフロント東京」オープン
- 9月** ・BANDAI PHILIPPINES INC. 設立

沿革

注：社名・地名は記載年月当時のもの

バンダイナムコグループの歴史

- 2013 ● 映像音楽コンテンツ「ラブライブ！」が人気に



©2013 プロジェクトラブライブ!

- 3月 ● NAMCO BANDAI Studios Vancouver Inc. と、NAMCO BANDAI Studios Singapore Pte. Ltd. 設立
- 6月 ● 米国で新作アニメ「PAC-MAN and the Ghostly Adventures」放映開始
- 8月 ● 浅草花やしきが開園160周年を迎え、記念イヤー企画を実施
- 10月 ● バンダイがサンスター文具を子会社化

- 2014 ● 「妖怪ウォッチ」関連商品が大ヒットし、アジアでの販売もスタート



©L5/YWP-TX

- 1月 ● 劇場版「THE IDOLM@STER MOVIE」がヒット
- 3月 ● バンダイナムコホールディングスが東京証券取引所開催の2013年度企業価値向上表彰で優秀賞を受賞
- 4月 ● バンダイナムコゲームスを含むグループ31社の社名英文表記を変更
- 6月 ● バンダイナムコホールディングスの社名英文表記をBANDAI NAMCO Holdings Inc. に変更
- 8月 ● なぞとき専用施設「なぞともCafe」オープン
- 10月 ● 国内でスマートフォン向けゲームアプリケーションが人気に。海外でアジア向けなどネットワークコンテンツ本格展開に着手

- 2015 ● 「鉄拳」・「テイルズ オブ」シリーズが20周年を迎える

- 1月 ● 中国上海にBANDAI NAMCO (SHANGHAI) CO., LTD. 設立
- 4月 ● 「NEXT STAGE 挑戦・成長・進化」をビジョンに掲げた中期計画をスタート
- バンダイナムコゲームスが(株)バンダイナムコエンターテインメントに社名変更
- サンライズのキッズ・ファミリー向け作品制作部門を分社化し(株)バンダイナムコピクチャーズ設立
- バンダイナムコライブクリエイティブが(株)グランドスラムを子会社化

- 6月 ● バンダイナムコホールディングスの代表取締役会長に石川祝男が、代表取締役社長に田口三昭が就任
- 8月 ● スマートフォン向けゲームアプリケーション「アイドルリッシュセブン」配信開始。グループオリジナルIPとして展開しヒット
- 9月 ● バンダイナムコグループが設立10周年を迎える
- スマートフォン向けゲームアプリケーション「アイドルマスター シンデレラガールズ スターライトステージ」が配信開始から1週間で400万ダウンロードを突破



©Bandai Namco Entertainment Inc.

- 10月 ● BANDAI NAMCO INDIA PRIVATE LIMITED 設立
- 11月 ● バンダイが「平成27年度第9回製品安全対策優良企業表彰」の「大企業製造・輸入事業者部門」における最上位賞「経済産業大臣賞」を受賞。3度にわたる受賞で同部門初の「製品安全対策ゴールド企業」に認定
- 「ガールズ&パンツァー 劇場版」が公開され、1年以上にわたるロングラン上映を記録
- 12月 ● 「ラブライブ！」から生まれたμ'sが第66回NHK紅白歌合戦に出場

- 2016 ● 「たまごっち」・「ナンジャタウン」が20周年を迎える

- 1月 ● バンダイナムコホールディングスなどグループ5社の本社機能を東京都港区に順次移転
- 4月 ● アジア地域の組織再編を実施。BANDAI NAMCO Holdings ASIA CO., LTD. が地域持株会社に
- (株)ウィズを子会社化
- 東京・台場にVRエンターテインメント研究施設「VR ZONE Project i Can」を期間限定でオープン
- 10月 ● スマートフォン向け人気ゲームアプリケーション「ドラゴンボールZ ドッカンバトル」がワールドワイドで1億ダウンロードを突破

©パードスタジオ/集英社・フジテレビ・東映アニメーション
©Bandai Namco Entertainment Inc.

バンダイナムコグループの歴史

- 2017 ● 1月 ● ナムコ創業者の中村雅哉が死去(1月22日、享年91歳)
- 3月 ● バンダイナムコホールディングス代表取締役会長石川祝男がフランス政府よりレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを受章
- 4月 ● 欧州大陸地域において、事業会社機能と持株会社機能を分離する体制がスタート
- (株)バンダイナムコテクニカ設立
- 次世代型アスレチック施設「SPACE ATHLETIC TONDEMI」オープン
- 7月 ● 新宿にVRエンターテインメント施設「VR ZONE SHINJUKU」を期間限定でオープン



© Bandai Namco Amusement Inc.

- 8月 ● 東京・台場に国内初の「ガンブラ」を主体とした公式総合施設「THE GUNDAM BASE TOKYO」をオープン
- 9月 ● バンダイビジュアルが(株)アクタスを子会社化
- 東京・台場に「実物大ユニコーンガンダム立像」の展示を開始
- 12月 ● 中国に持株会社 BANDAI NAMCO Holdings CHINA CO., LTD. を設立

- 2018 ● バンダイナムコグループ、(株)集英社、東映アニメーションが北米7都市で「DRAGON BALL NORTH AMERICA TOUR」を開催

- 2月 ● (株)BANDAI SPIRITS設立。バンダイのハイターゲット事業とバンプレストのロト・新規事業を移管(移管は4月)
- 4月 ● 「CHANGE for the NEXT 挑戦・成長・進化」をビジョンに掲げた中期計画をスタート
- ナムコにバンダイナムコエンターテインメントのアミューズメント機器事業を統合し、社名を(株)バンダイナムココアミュージメントに変更
- バンダイビジュアルとランティスが統合し、社名を(株)バンダイナムコアーツに変更
- グランドスラムをバンダイナムコライブクリエイティブに統合
- バラエティスポーツ施設「VS PARK」が大阪・EXPO CITY内にオープン
- 7月 ● サンライズとLEGENDARYが「機動戦士ガンダム」シリーズの実写映画の共同開発を発表
- 9月 ● サンライズがCG制作会社(株)サブリメイションに資本参加

- 10月 ● 北米におけるハイターゲット向け玩具事業強化を目的に、BANDAI NAMCO Collectibles LLCを設立
- (株)バンダイナムコネットワークサービス、(株)バンダイナムココアミュージメントラボ設立
- 11月 ● バンダイナムココンテンツファンド有限責任事業組合設立
- (株)ロジバルエクスプレスが「平成30年度エコドライブ活動コンクール」において「国土交通大臣賞」を受賞

- 2019 ● 中国・上海に、トイホビー事業、リアルエンターテインメント事業、IPクリエイション事業の拠点を順次設立
- 世界8都市を巡る「DRAGON BALL」のイベントツアー「DRAGON BALL WORLD ADVENTURE」を開催



©パードスタジオ/集英社・フジテレビ・東映アニメーション

- 「機動戦士ガンダム」が40周年を迎える
- 3月 ● アニメーション制作会社(株)SUNRISE BEYOND 設立
- 4月 ● BANDAI SPIRITSを存続会社、バンプレストを消滅会社とする吸収合併を実施
- (株)プレックスを存続会社、ウィズを消滅会社とする吸収合併を実施
- (株)バンダイナムコセブンス、(株)バンダイナムコ研究所設立
- サンライズ音楽出版が(株)サンライズミュージックに社名変更
- 「ガンブラ」(リアルシリーズ)の累計出荷数が5億個を突破
- 5月 ● 家庭用ゲーム「テイルズオブ」シリーズが全世界累計販売本数2,000万本を突破
- 8月 ● バンダイナムコホールディングスが日経平均株価指数の構成銘柄に採用
- バンダイナムコエンターテインメントが「B.LEAGUE」所属のプロバスケットボールチーム「島根スサノオマジック」の経営権を獲得
- 9月 ● 欧米向けモバイルコンテンツの開発・マーケティングを行うBANDAI NAMCO Mobile S.L.をスペインに設立
- 10月 ● バンダイナムコホールディングスと集英社による共同出資会社SHUEISHA BANDAI NAMCO (SHANGHAI) CO., LTD.を設立
- バンダイナムコホールディングスがTOPIX100の構成銘柄に採用
- バンダイが(株)ハートを完全子会社化

沿革

注：社名・地名は記載年月当時のもの

バンダイナムコグループの歴史

- 11月 ・バンダイナムコアーツの音楽レーベル「ランティス」が20周年を迎える

2020年代

- 2020 ● 「バックマン」、「ガンブラ」が40周年を迎える
 ・「鬼滅の刃」関連商品が大ヒット
- 5月 ● 創通を完全子会社化
 ・バンダイナムコエンターテインメントと(株)フロム・ソフトウェアの共同開発による家庭用ゲーム「DARK SOULS III」が全世界累計販売本数1,000万本を突破
- 9月 ● 家庭用ゲーム「鉄拳」シリーズが全世界累計販売本数5,000万本を突破
- 10月 ● BANDAI NAMCO Entertainment Europe S.A.S.が家庭用ゲームタイトルの開発などを行う Reflector Entertainment Ltd. を子会社化
- 12月 ● プラモデル生産拠点「バンダイホビーセンター」の新館が完成
 ・18メートルの動く実物大ガンダム的一般公開を行う施設「GUNDAM FACTORY YOKOHAMA」を横浜・山下ふ頭にオープン



©創通・サンライズ

- 「バックマン」が北米男子プロバスケットボールリーグNBAとパートナーシップを締結
 ・遊べるお菓子「キャラバキ」シリーズが累計出荷数5,000万個を突破

- 2021 ● 2月 ● 東京・池袋に世界最大級の大型カプセルトイ専門店「ガシャポンのデパート 池袋総本店」をオープン。設置台数3,010面でギネス世界記録™に認定



- 4月 ● 従来の5ユニット体制から3ユニット体制へ組織を再編
 ・バンダイナムコホールディングスの代表取締役社長に川口勝が就任
 ・「ガンブラ」のランナー（プラモデルの枠の部分）をユーザーから回収しリサイクルを行う「ガンブラリサイクルプロジェクト」を始動

- 「バンダイナムコグループのサステナビリティ方針」を策定
 ・バンダイが「令和3年度 知財功労賞 特許庁長官表彰(商標)」を受賞
 ・中国・上海で実物大フリーダムガンダム立像を公開

- 9月 ● BANDAI NAMCO Holdings France S.A.S.とBANDAI NAMCO Entertainment Europe S.A.S.を、BANDAI NAMCO Europe S.A.S.として統合

- 10月 ● ドバイ万博日本館で「ガンダム」がPRアンバサダーを務める

- 2022 ● 1月 ● BANDAI NAMCO Toys & Hobby (SHANGHAI) CO., LTD. を BANDAI NAMCO Entertainment (SHANGHAI) CO., LTD に統合

- 2月 ● 2025年大阪・関西万博へのパビリオン出展を発表
- 3月 ● バンダイナムコエンターテインメントとフロム・ソフトウェアの共同開発による家庭用ゲーム「ELDEN RING」が3月末時点で全世界累計出荷本数1,340万本を突破

- IPでファンとつながるための新しい仕組み、「IPメタバース」の第1弾として「ガンダムメタバース プロジェクト」の展望を発表

- BANDAI AMERICA INC. と BANDAI NAMCO Collectibles LLC を統合し、4月に社名を Bandai Namco Toys and Collectibles America とする

- 4月 ● グループの最上位概念としてパーパス「Fun for All into the Future」を制定し、新ロゴマークを導入

BANDAI NAMCO

- 「Connect with Fans」を中期ビジョンとする3か年の中期計画をスタート

- 映像事業を展開するサンライズ、バンダイナムコアーツの映像事業、(株)バンダイナムコライツマーケティングを、(株)バンダイナムコフィルムワークスとして統合

- 音楽・ライブイベント事業を展開するバンダイナムコアーツの音楽事業、バンダイナムコライブクリエイティブ、サンライズミュージックを、(株)バンダイナムコミュージックライブとして統合

- 東京証券取引所の市場再編に伴い、バンダイナムコホールディングスが市場第一部からプライム市場へ移行

バンダイナムコグループの歴史

- バンダイナムコホールディングスが、アメリカのメジャーリーグベースボール球団 ロサンゼルス・エンゼルスとスポンサーシップ契約を締結



- 福岡で実物大v(ニュー)ガンダム立像の展示を開始。ガンダムの複合エンターテインメント施設「ガンダムパーク福岡」も同時オープン

- 6月 ● (株)バンダイナムコエイセス設立

- 7月 ● バンダイナムコグループ各社が展開する商品、体験イベントを一堂に集めた「バンダイナムコCross Store」を横浜と博多にオープン



- 「ONE PIECE カードゲーム」を発売、大ヒット

- 10月 ● Bandai Namco Europe S.A.S.がゲーム開発等を行うLimbic Entertainment GmbHを子会社化

- ガンダムシリーズの新作TVアニメ「機動戦士ガンダム 水星の魔女」放送開始



©創通・サンライズ・MBS

- バンダイナムコフィルムワークスがCG制作会社(株)アニメに資本参加

- 12月 ● BANDAI SPIRITSがぬいぐるみメーカー(株)サンライズ(現(株)バンダイナムコヌイ)を子会社化

- 2023 ● 1月 ● 大人向けコレクターズ商品の統一ブランド「TAMASHII NATIONS」の海外初フラッグシップショップ「TAMASHII NATIONS STORE SHANGHAI」を中国・上海市にオープン